

もったいない・おかげさま・ほどほどに、が環境と人間を育てる

も う

M・O・H通信

M・O・H communication

38号
2013
Winter

特集:教育「生きる力」



絵ろうそく

雪に閉ざされ、花を見ることも摘むこともできない、厳しい冬の環境の中で、ろうそくに花を咲かし、仏に供える花とした。これが、東北の地で絵ろうそくが生まれた起源です。まさに先人の知恵の賜物。

現在では、インテリアや夏場お花の傷みややすい時期にお花の代わりとして、お仏壇で使われたりしています。

色ろうそく

「和ろうそく」のもつ厳粛なイメージが色を変えるだけで、なにか自分たちの暮らしに近いものになった気がする。そんなことをコンセプトに作りました。

やわらかい色合いがやわらかい灯りを生み、やわらかい空間をつくる。やわらかいくらしの為にろうそくです。



「心を包み込んでくれるような本物の灯りは和ろうそくでしか創り出せない」

湖国の港町として栄えた滋賀県今津町で、大正3年の創業以来、四代に至る今日まで和ろうそくづくりに励んできた大興。1984年には滋賀県の伝統工芸品として正式に指定されました。伝統と技を大切にしながら、時代が求める新たなろうそくを生み出しています。2011年には「お米のろうそく」がグッドデザイン賞に選ばれました。



【近江手造り和ろうそく ^{だいよ}大興】

〒520-1623
滋賀県高島市今津町住吉2-5-8
TEL/0740-22-0557
FAX/0740-22-1267
<http://www.warousokudaiyo.com>
<http://warousokudaiyo.shop-pro.jp>



「M・O・H」のマーク=牛

牛は環境の象徴ともいえます。牛糞はメタンガスになり、肥料にもなります。大地を作り、食物を育て、生物を養います。私たちは命の源ともいえる、牛を「MOH」のマークとし、循環型社会の象徴とします。

★ M・O・H通信の役割 ★

持続可能で豊かな循環型社会を築く社会人の意識を向上するためMOH通信は情報を発信し交流を続けます

- M → **循環** 他人的生命を奪って得たものを使わせて頂く
- O → **共生** 人は一人では生きられない、環境によって生かされている
- H → **抑制** 欲はほどほどに、良き環境を作り上げるために

contents

目次

特集「教育」— 生きる力

M・O・H巻頭言

自立型地域経済の確立に向けて 森 建司 …… 3

M・O・Hな店 地元の伝統食が人気商品に

本屋さんが売る靴漬け …… 5

① M・O・H対談

子どもたちに生き抜く力をつけ、本当の美味しさを伝える「食まなび」

堀越 昌子 & 森 建司 …… 8

② M・O・Hインタビュー

どんぐり銀行がつなぐ世代と里山 穴吹 浩之 …… 17

③ M・O・H対談 体操服リサイクルは楽しくて新しいエコのスタイル

子どもが主役! 今関 信子 & 岡部 達平 …… 22

④ 寄稿

在家得度のススメ 小林 隆彰 …… 31

⑤ 寄稿 道德教育の大切さを熱く語ろうー

いま、子どもたちに何が必要なのか 押谷 由夫 …… 33

⑥ 寄稿

「かめの部屋」で絵本と出会う 平松 成美 …… 36

⑦ 寄稿 小学校「生活科」で求めるもの

M・O・Hで広がり! 子どもたちの心のフィールド 西嶋 頼基 …… 40

海津ウォーク 本田 明 …… 44

わたしたちが創る一くつき

山のめぐみフォーラム「一里山と水一」開催されました。 …… 47

わたしたちが創る一湖北

『よばれやんせ湖北 ビワマスフォーラム・生産者消費者交流会』開催しました。 …… 49

わたしたちが創る一守山

食と文化の歴史探訪 “なばな”を食べよう …… 51

未来戦略サロン活動報告

豊かさははかるにっこり指標のご提案 …… 53

漫画

山暮らし子育て日記 オノ ミユキ …… 57

郷土の偉人

「雨森芳洲」を学ぶーその1 井上 昌幸 …… 59

心温まる物語

渡り鳥がくれた生き生き人生 今関 信子 …… 61

里のお話

もう師走 三山 元暎 …… 63

本の紹介 …… 64

講演日記 …… 65

イベント紹介 …… 66

M・O・Hニュース …… 67

通信概要 …… 69

読者の声 …… 70

表紙写真

京都の松ヶ崎。

五山の送り火のひとつ、法の山を背に自作のリサイクル・ピンホールカメラで燦々と輝く太陽を撮影。

●撮影＝岡部達平（プロフィールは30ページ）

最近の社会は各方面にわたって混乱を極めている。政治、経済、社会倫理などなど天下国家のありようから、個人の生活に及ぶところまで、マスコミの報道に驚かされることしばしばある。

もちろんこれらの諸現象は新しい社会システムが構築され、一つの方向に向かって動き出すまでの「混沌の時代」として捉えるべきであろうが、その新時代の理念が社会全体にすがたを表し、浸透するまで様々な議論や試行錯誤が繰り返されることであろう。

その中であって、経済至上主義が寡占化する経済力（権力）の集中を排し、それによってもたらされる様々な弊害を排除する「持続可能社会」の実現こそ、最大の課題ではないだろうか。

持続可能社会形成の大原則は『地方主権・個人主権』の復活にある。

主権の回復とは『自立する』ことであり、『自立する』とは自己に対する責任を自らが果たし、子孫の繁栄、幸福を生

涯を送りうる心豊かな社会を、自分たちの力で築きあげることではないだろうか。

自立する地域経済システムとは、地域社会が必要とする生産活動を自らが引き、その成果を地域社会に役立てていく『地産地消』が大きな役割を果たす。

現代の科学技術によって培われた大量生産型工業製品では、製品の機能のみが

生みだし、決して永遠の存在とはならないだろう。

今、われわれは経済社会がもたらせてくれた数々の利点に頼ることなく、自然との共生に配慮した持続可能社会の実現を模索している。その社会では時には工業製品に囲まれた『物による豊かさ』を失うことも予測される。しかし

自立型地域経済の

確立に向けて

森 建司

重視され人間の尊厳や文化の優先順位は低かった。コストダウンという企業間競争に勝ち残る成果のみが最重視されてきたのだ。この経済社会の拡大は人類に

対し大きな影響を与えた。経済競争の勝者が一国の政治を左右し、ついには世界経済を牛耳ろうとしている。

しかし、この経済社会は多くの矛盾を

生きているのだ。地域の消費者は地域の産物を選択し購入する責任があることを忘れてはならない。このように生産者と消費者が一体化されたシステムが出来てこそ、自立型地域経済が生まれる。

それを恐れず挑戦することこそ、希望に満ちた未来社会を構築する正義であると確信している。

本来、生産者（供給者）と消費者は同じ人物である。消費者が支払いに充てる代金は本人が家族が生産活動をするに

よって得た収入である。まずその生産品が食べていける適正な価格で購買されて、生産者すなわちその消費者は生きていけるのだ。

教

■ 教育 —「生きる力」

育

ようやく立ち始めた女の子(京都・梅小路公園にて)

M・O・H
な店

木之本編

本屋さんが売る こうじ 糀漬け？

地元の伝統食が人気商品に

木之本宿の面影が残る北国街道沿いに、ちょっと変わった本屋さんをみつけました。ごく普通の本屋さんの前に「糀漬けあります」の看板が……なぜ？

ふみ子さんの笑顔もおいしそう。



ええっ??思わず足が止まりました。

何気なく通りかかった木之本で、気になるものを発見！ 異分野のコラボレーションが盛んになっているとはいっても「本屋さんで糍漬け」という取り合わせはとても不思議です。半信半疑で看板をだしている「いわね書店」に尋ねてみると、若根ふみ子さんがここに笑顔で「はい、これ」とごく普通のこのように店の奥からニシンの糍漬けを出してきてくれました。

「糍漬けは湖北の伝統食。冬場の貴重なたんぱく源でした。余呉から木之本、湖西の高島あたりまでは、昔ほどの家庭でも作られていたんですよ。冬の厳しい寒さが糍漬けにはいいよごね」

書店で売っている糍漬けは若根さんが手作りしたもの。ふるさと塾で地元・木之本のおばあさんから作り方を教えてもらい、10年前から書店で販売することにしたそうです。ふみ子さんのご主人、豊生さんが無農薬・有機で栽培した大根をニシンとともに自宅の蔵で樽漬けした糍漬けは、防腐剤などは一切不使用。しっかりと漬けてまれて滋味豊かです。昔懐かしい味に、地元の人を中心にファンが年々

増え、東京から毎年発送の依頼をしてくる常連客もいるほど。まさに知る人ぞ知る、木之本の冬の味覚として定着しているようです。

書店主の豊生さんと結婚後、外商としてばかり働いて家業を支えてきたふみ子さんは、10年前に息子夫婦に書店を任せてから料理に専念することになりました。結婚前は調理師になる夢もっていたほどなので、すっかり食事作りの楽しさにのめりこみ、やがて仲間5人で月に一回、北国街道沿いで手作りの食品を出店するようになります。そこで自家製の糍漬けが好評だったことが、書店で売るきっかけになったそうです。

糍漬けは冬季限定のため、通年でえび豆を販売。パッケージデザインは北中篤氏が手がけました。さらに、近隣で赤かぶら漬けやせいたく煮などが得意な人たちに声をかけて、各店が一品ずつ自慢の郷土の味を売ることで地元の商店街を活性化させるというアイディアも温めています。

「顔が見える商売を大切にしたいですね。地域はそこに住んでいる人が支えなく



①



5



②



③



④

① うふっ! 本の外商もピカーですよ ② 大根とニシンの糍漬け ③ えび豆 ④ 新パッケージ ⑤ 出荷を待つ樽たち

てはいけないと思うので、私は大型店に行かず、なんでも地元の商店で買っています。地元を支えていくため、何かいい方法はないかなあと考えるのも楽しみです。」

伝統の味
大塚にしたい
岩根ふみ子

●いわね ふみこ 1994年、高月町生まれ。高校卒業後、調理師を目指して1年間料理学校に通う。木之本のいわね書店に嫁ぎ、書店の外商を40年間務める。1992年に書店営業の経験をもとめた「本屋です、まいど」を平凡社から出版。この頃から糍漬けの販売を始める。

●いわね書店

長浜市木之本町木之本1-1-15

TEL 0749-821226

*ニシンの糍漬け103g入り300円は冬期のみ、全国発送も受付。えび豆103g入り300円は通年販売。

何気なく目に止まった看板で、偶然出会った伝統の糍漬けとふみ子さん。何年後かにはもっといろいろな出会いが商店街のあちこちにあるかもしれせん。冬の本之本へ行く楽しみがまたひとつ増えました。

●対談



堀越 昌子

滋賀大学名誉教授
京都華頂大学教授



森 建司

循環型社会システム研究所 代表

〈教育「生きる力」〉

子どもたちに生き抜く力をつけ、 本当の美味しさを伝える 「食まなび」

物質的に豊かになった現代の日本で、本当の幸せや豊かさを感じられず、子どもたちが夢をもてないのはなぜなのでしょう。滋賀県の食文化をテーマとして長年研究を続けてこられた滋賀大学名誉教授の堀越昌子さんをお招きして、伝統食の魅力と自分で料理を作ることの大切さ、そしてそれを子どもたちに伝える「食まなび」の取り組みについてお話をうかがいました。堀越さんが研究のために訪れたラオスで感じた本当に豊かな暮らしと農業のあるべき姿とは――。

■新江州株式会社 循環型社会システム研究所（長浜市）

■2012年10月16日

貧しくても輝いている ラオスの子どもたち

森 最近、世の中はどうなったんだろうというほど不可解なことが起きていますね。経済社会でも犯罪でも。

堀越 子どもも大人も夢がもてない状態の人が多くて、そのエネルギーが少し違ったところへ向けられているように感じます。

森 未来に希望をもってがんばるモチベーションがないんですね。

堀越 この30年ほど滋賀の食文化を中心に研究していますが、滋賀の食文化を調べるために、同じ文化圏である東南アジアによく行くんですよ。私はその中でも特にラオスが大好きなんです。

森 ラオス……？

堀越 ええ、ラオスには昭和30年代までの日本の田舎と同じ社会があるんですよ。ラオスの子どもたちは貧しいんだけど本当に生き生きしている。目が輝いていて、村のお年寄りに対してもすごく優しいんです。去年村に滞在した時に体験したのですが、子どもたちはお年寄りが困って

いたら、すぐに椅子をもつてきたり自然発生的にカバーしてくれる。村の中で子どもたちがかわいがられていて、お年寄りも大事にされている。そういう環境で、子どもたちの思いやりは生まれてくるんだなあと感じました。

森 これは、われわれが幼いときの田舎での生活と重なるものがあります。

堀越 そういう環境で生きている子どもたちは、自分の生活を良くしたいとか、将来はこうしたいといった鮮明な夢をもって

歓迎の歌を歌ってくれた子どもたち(ラオス・ルアンパバーン郊外農村で)



〈教育「生きる力」－①〉



水田で魚釣りをする子ども(ラオス・ビエンチャン郊外農村で)

います。そこが現代の日本の子どもたちと違う。パッとみたときは日本の子どもの方が幸せかなと思います。でも、現実を知ると日本の子どもはかわいそう。滋賀はまだましですけど、都会には遊ぶところもない。自分のマンションしか空間がなくて、ほかは学校だけ。そんな環境で本当に夢を抱けるか…。

森 日本の社会が目指してきたものが行き詰まっているいま、途上国といわれる国にもう一度学び直さないといけない面も確かにありますね。

堀越 本当にそう思います。

自給自足生活の安定感

森 私は昭和11年生まれですから終戦直後は小学校3年くらいでした。家は田んぼをつくっていましたが、子どもは鶏の世話をしたり、お風呂に水を漉して入れたりしなければならなくて、子どもは子どもで忙しかった。勉強なんかしていたら怒られたものです(笑)。

堀越 そうそう！ 私の家も長浜の農家でしたからそうでした。だから学校へ行くのが楽しかったですよ(笑)。家に帰ったらいろいろ手伝いが待っている。森 私の祖母は畑へ行くことが喜びだったんですよ。雨が降ると「今日は畑に行けなかった」と嘆く。身体が休まっただろうと思うのに「私は楽しみで行っているんだから」と言う。どこにその喜びがあったのか…しかし、感覚としてはわかりますよね。

堀越 ラオスも同じです。現金収入は世界でも最低レベルなんですけど、ラオスに行くと日本より安定感、安心感がある。

それは家のまわりに基本食料がほとんどそろっているからではないかと思います。

森 自給自足なわけですね？

堀越 そうです。日本だと、もし食物の価格が高騰したら明日食べるものが調達できるかわからないような不安定感がありますよね。ところがラオスでは身のまわりに全部ある。山の焼き畑に雑穀が植わっていて、竹の槽に去年収穫したお米をストックしているし、野菜は家のまわりにある。女性は連れ立って近くの山へ行ってキノコや山菜、青菜を採ってくる。男性は朝早く起きて魚を捕りに行く。そうすると、世の中で戦争が起ころうが経済封鎖が起ころうがぜんぜん心配がないわけです。日本では農家だとしてもお砂糖は買わないといけません、ラオスではサトウキビを植えていて、それを煮詰めてお砂糖も作る。ですから95%ぐらいは自給できる。現金収入がなくても生きていける、循環していく安心感があるんですよ。

森 われわれが目指している持続可能社会や自然共生はそういうことなのかもしれません。



住んでいる土地でとれた食物を食べると身体が喜ぶんですよ
(堀越氏)

森 しかし、企業への浸透というのはどうも無理なんです。経済界を牽引する人たちは自分の会社が成長するにはエネルギーが必要で、右肩上がりの成長曲線をめざしている。

堀越 経済が成長しないと安心できない。成長への幻想があるんでしょうね。

大規模化農業の危うさ

堀越 農業についてもう少し考えてみますと、滋賀県では農村がどんどん高齢化して働き手がなくなってきた。集落営農の試みなどがされています。すごくうまくやっている集落で話を聞いたところでは、村全体が本当に食べていけるようにするには、若い人だけが会社のように農業をすることでなく、食べるものも含めて村でできるだけ自給してやっていくことが

堀越 「昔には帰れないよ」と言われる方もいますが、本当の贅沢ってそういうところにあるのではないのでしょうか。
森 経済成長を目指してどんどん新商品を送りだす、そのために技術革新をしてお客さんを引っばっていくというのが現代社会。それを「ほどほどにしてくれ」とわれわれは主張しているんですが。
堀越 森さんのような考えが企業に浸透すれば、世の中少しは変わると思います。

必要だというんですね。そういうコミュニティのあり方はラオスの農村と同じ。まさに昔の「村社会」。

森 いまの農業問題を国の政策という視点から「農業産業をいかに育成するか」と論じる人がいます。そもそも「農業産業」とは何なのか？ 結局、滋賀で米を大量生産して輸出するという、いわゆる工業社会的思考法なんです。忙しいときは親戚に助けってもらいながら家族全員でやっていくような小規模な農業によって、みんなが生活していける、集落がひとつの家族みたいになる。そんな暮らしを目指す農業もあると思うんですが。

堀越 究極の幸せな暮らしは何かと考えると、自分で畑を耕して自分が食べるものを作りながら、そんなに多くなくてもいいのでそこそこ収入があって、人の輪もあれば一番いいのではないのでしょうか。しかし、国の農業政策が描いている絵は少し違いますね。大型の機械を入れることで働く人を少なくして農業で儲けたい、ただそれだけなんです。そういう農業では人の輪はできません。森 しかも多様性のある農業ではなくて

米作り一本にするという…。

堀越 効率ばかり求めるとそうなっちゃうんですよ。ラオスの隣国タイの北部はいま農地がどんどんつぶされていっています。動物や山菜などいろんな食べるものがある、豊かで大切な山が全部禿げ山にされて、私が見学に行ったところは見渡す限りオレンジ畑になっていました。

そこに住んでいた多くの少数民族はほとんどが幾ばくかのお金をもらって追い出され、たとえ働ける場が設けられたとしても身のまわりにはオレンジしかない。そうすると、そこで働いている人もすべてのもを買わなければならぬ。いままでは山や野原で食べるものを自分で採ってきて、あとは焼き畑でトウモロコシもお米も穫れたので現金がなくても生きていけたのに。

大量にオレンジを栽培して外国に売って儲ける。でも、そこにいる人はぜんぜん儲からないんですよ。現金収入が増えなくても、何もかも買わなければならぬから、そこで働いている人は決して豊かにならない。先進国の都合だけで安い農作物を作って先進国が潤っているだけなん

だなど痛感しました。

森 おっしゃる通りです。滋賀県の農業をどうするか取り組んでいきたい問題です。

滋賀の食文化を調査してその豊かさを再発見

森 ところで、なぜ堀越先生は食文化を研究テーマに選ばれたのですか？

堀越 私はもともと化学的な実験をやっていました。うちは長

浜の農家で、お米について調べたいと考えて修士課程までは試験管を振っているんな実験をしていました。滋賀大学に来て、滋賀の食文化を調べるチャンスがあったんです。長浜出身で滋賀県のことこそそこ知っているつもりでしたが、湖北や余呉をはじめとする県内6ヶ所を調査して回っ

わたしたちの暮らし方と経済成長のバランスが豊かさの鍵となるのでは？(森氏)



てすごく感激しました。人々の暮らしとそこで展開された食生活を改めて知って「こういう暮らしがあったのか！」と胸に迫ったんです。ラオスと同じで決して物質的に豊かではないけれど、豊かな生活が あったんですよ。

森 豊かな生活というのは？

堀越 食材を100%利用する。そして、ふだんは本当に質素な食生活だけれど、お祭りやお正月には年収の何分の一かくらいのお金を貯蓄する。お祭りでは村の人

たちが結束して1週間も2週間もかけて準備していく。子どもは子どもで、地蔵盆はすべて子どもたちに任される。それが子どもたちにとって大きな喜びで、学年が違う仲間とも知り合える：豊かな人間関係、コミュニケーションが昔は自然にありましたね。

私はずっと食文化をテーマに仲間と一緒にいろいろ研究してきましたが、とことん美味しいものを追求していくと昔の伝統食、その中でも特に家ごとの日常食と、お祭りや法事などの、ハレの食々に行き着くんです。

森 ハレの食は楽しみでしたよね。しかし、近頃はもつといいものがお総菜としてスーパーで売られていますよ。

堀越 ご馳走ばっかり食べていたら感動がなくなります。ふだんは必要最小限の質素な料理をしつかり食べて、ときにご馳走という昔のスタイルの方がよほどみんな食に対して喜びがありましたね。

 **自分で作ることで味わう究極の美味しさ！**

森 郷土料理の本を出しておられますよね？

堀越 すばらしい伝統食がどんどん消えていくので「滋賀の食文化研究会」として検証していこうということになりました。聞き取りをして学んで作って、それを子どもたちに伝えようと研究会のみんなで『つくってみよう滋賀の味』という本にまとめました。

森 わが家でも愛用していますよ。

堀越 伝統料理は確かに時間や手間がかかります。でも、誰でも作れるという点がすばらしい！ 素人でもそこそこ作れて、ずっと作ってきた人はプロ級に美味しい料理ができる。それが田舎の家庭料理、地域の料理の良さだと思います。

しかも味は多様なんです。ある決まった調味料がないと作れないというようにパターン化されていなくて、お醤油やお砂糖の加減はその家その人の体調にあった多様性が認められます。だからこそ飽きないし、何度食べても美味しい。特定の人しか作れない料亭の料理とは違って、誰でも…子どもでもそれなりに作れる。最初は下手でも何回も作っていると進化

していく。そういう伝統料理の良さも伝えていきたいです。

森 いま、外食がものすごく人気ですが。**堀越** 外食はたまには美味しいですよ。でも飽きます。味がパターン化されていて何回か食べたなら「もういいわ」となる。自分で作ったものや田舎料理が飽きないのは、多様性の器々があるからではないでしょうか。自分で作った料理は味の加減ができます。自分が一番美味しいと思う味にできるのは料理を作る人の特権（笑）。

究極の美味しいものを食べようと思ったら自分で作らないといけないなと思います。とことん美味しいものを味わうには、自分が腕を磨いていけばいいんです。森 なるほど。

堀越 いまの学生は大学に入学すると下宿に冷蔵庫と電子レンジを置いて、最初はおちゃつとは料理を作ろうとするんですが、結局忙しさにまぎれてレンジも使わず、コンビニ通いになってしまの人が多し。それは男女を問わず料理を作る技術を持っていないからです。

生きていくために最低限、自分が食べ



ナレズシを漬ける子どもたち(草津)

るものは自分で作れる力量だけは18歳までに身につけておきたいですね。
森 個人の自立化ですね。
堀越 そうです。食べる喜びというのは、作る段階から味わうもの。買ってきた総菜では本当の美味しさは味わえない。本当の喜びを得るためには、自分で味つけして作るというのが一番の理想ですね。



子どもたちがつくった滋賀の伝統食



生き抜く力をつけるために

森 先生が関わっておられる「食まなび館」はどういう施設なんですか？

堀越 「滋賀の食事文化研究会」での20年ほどの活動から、こんな食まなびの場がほしいと、名前は「食まなび館」に決まりました。来年の5月にはほぼ形になってくると思います。

森 どういう活動をされるご予定ですか？

堀越 まず子どもたちに食を通じて生き抜く力をつけていきたいと考えています。いまは上げ膳据え膳で育っている子どもが多いんです。その上、美味しいものしか食べていなくて口が肥えている。そういう風に育ってきていると世の中が変わったら生きていけない。地元のすばらしい食文化を学ぶことで、子どもたちの生きる力を鍛えられたらいいなと思っています。

森 対象は子どもですか？

堀越 子どもだけではありません。「食まなび館」はごく小さなスペースですが調理台を3台置いて「学ぶ」そして

食品加工する場所にします。加工といっても試作品を作る程度ですが。調理実習ができて、地域の人が女性も男性も学びあえるようなところにした다고考えています。

それと並行して、湖北の食文化について地域の人から聞き取る作業にもいままで以上に力を入れます。今年の秋は、木之本町の古橋や草野川沿いの野瀬と高山で聞き取りをし、料理を作りながら教えてもらいました。そういう食まなびをわれわれ自身もしながら、若い世代に伝えていきたい。その活動の拠点が「食まなび館」です。

いま求められている 大人が生涯学べる場

森 食べるものもそうですけれど、いまは身の回りのものほとんどが外国製品です。お仏壇でさえもそうなんですよ。仏壇は分業化されていて十二職の職人が揃わないと作れないと聞きました。滋賀県でもちゃんと揃うのに。そんな分野でも儲かる方へいつてしまうのかと思うと

修理なんてまるでできない。本当にこれでいいのでしょうか？

堀越 森さんが考えておられるものを求めていくと、地産地消というか、小さいスケールでの循環、人と人とのつながりがあることの良さがわかってくるんじゃないかなと思います。「本当の幸せって何かな？」と考えると、それに通ずるところがありますね。

森 そう言っていただけだと嬉しいですねえ。「あの人が作ったから」「これは子孫まで大事にしるよ」とか品物にモノガタリがついて価値がでるとよくいわれている一方で、そういうモノガタリを全部否定して外国から輸入するようなスタイルが主流になっている。そこに問題があるんじゃないでしょうか。

堀越 「大きなことはいいいことだ」では全然ないですよ。むしろ小さいからこそちつと維持できるという面があります。サイズというのはすごく大事だと思います。

森 これから地産地消のネットワークをつくろうとしているところです。将来的には地産地消大学校、あるいは滋賀県

の地場産品会館のようなものをつくって、食物以外の工芸品なども展示するといった展開につなげたいと考えていて、先生にもぜひ加わっていただきたいです。

堀越 ぜひご案内ください。

森 内藤正明先生が淡路島に吉備国際大学の「地域創世農学部」を開設されるのはご存知ですか？普通の農学ではなく、食の研究から始まって人間の幸せまで追究する学部なんです。私はそういう取り組みを内藤先生と一緒に滋賀県でもやりたいと考えています。大学校といったら資格が取れるというのではなく、大人も全員が学ぶ場になればと思っております。「M・O・日通信」を読んでくださる方が増えてきているのですが、お申し込みは65歳以上の方も多くなってきました。

堀越 われわれはずっと高度経済成長でモノをバンバン買ってきた世代で、定年を迎えて「ほんまにこれでええのかな？」と感じているのではないのでしょうか。

森 一流企業に入って海外勤務をして、60歳を過ぎて郷里に帰っても生きていく方向がわからない。昔の友達がいても話



「今年の紅葉はきれいですねえ」充実感たっぷりのご両名

が合わない、お寺やお宮さんに行ってもなんのつながりもないですから。昨日まで会社を自分の家のように感じ、自分のすべてだと思って一生懸命仕事をしてきたのに退職したらまったく関係ない。定年を迎えて「あれ？俺は今までいったい何をしてきたんだ？」という一種の絶望感は誰にでもあると思うんです。だから、そういう人たちも参加できるよ

食まなぶ 堀越昌子

●ほりこしまさこ 長浜市生まれ。京都大学農学部農学研究科を修了後、滋賀大学に勤務。滋賀大学名誉教授。2012年4月より、京都華頂大学教授・現代家政学部副学部長。滋賀の食文化研究会副会長。研究分野はお米の栄養学、ふなずしの科学、滋賀の食文化、アジアの食文化、食育。滋賀の伝統食に関して分担執筆した著書に『滋賀の食事』（農文協）、『食の文化フォーラム27・伝統食の未来』（ドメス出版）、『かなずしの謎』へらしを彩る近江の漬物』『近江の飯・餅・団子』『湖魚と近江のくわい』『羊と近江のくわい』『くわいのみや』滋賀の味（サンライズ出版）

うな学ぶ場をつくりたいですね。
堀越 この頃、滋賀大学でも社会人で入学してこられる方が結構あります。だから、生涯ずっと学び続けるところがあつたらいいですね。ぜひ進めてください。森 今日、身近な食と子どもたちの生きる力について考えるいい機会になりました。ありがとうございます。

勇気凛々 いの壁を打ち破れ 森建司

●もりけんじ 1936年滋賀生まれ。滋賀県立長浜北高校卒業。新江州（株）取締役会長。滋賀経済同友会特別幹事、滋賀経済産業協会相談役など
〈著書〉『吃音はなある』遊タイム出版『循環型社会入門』新風舎、『中小企業にしかできない持続可能型社会の企業経営』サンライズ出版、『中小企業相談センター事件簿』サンライズ出版

どんぐり銀行がつなぐ 世代と里山



穴吹 浩之

香川県環境森林部みどり整備課 森づくりグループ
課長補佐

どんぐりを拾うことを通して、森に近づき、森を身近に感じてもらうことで、「森のことを理解していただき、森づくりの仲間を増やしていきたい」との思いから、香川県ではどんぐりを拾って預けると苗木やグッズに交換できる、どんぐり銀行という活動をされています。どんぐり銀行ができて20年、県民や里山に与えた影響とは？ 銀行を支えるNPO法人どんぐりネットワークの存在とは？ 香川県環境森林部みどり整備課の森づくりグループの穴吹浩之さんにお話を伺いました。

■香川県庁環境森林部みどり整備課（高松市）

■2012年10月23日

穴吹 大変だとは思いますが、頑張っておられます。

ドングリランドビジターセンターは、森づくりのボランティアの人たちが集う場所として平成14年にできました。最初は県で管理をしていましたが、今はどんぐりネットが指定管理者となって、どんぐり銀行の窓口や自分たちの活動をされています。

どんぐりがつなぐ絆 20年の歴史から……

—— 県民への影響は？

穴吹 最近はお子さんに限らず、おじいさんやおばあさんが孫のためにどんぐりを拾い、グッズに交換しに來られます。普段山に入らない人たちも山に親しむことが目的なんです。そこから森を守る活動につながればいいと思います。

高知県に早明浦ダムがあるので、ここは香川県の水源で、どんぐり銀行もそこで定期的に交流をしています。香川県には大きな山や川が無く、水不足に悩むこともありますので少しでもお手伝い

出来たら……と。年に一回草刈りや植樹をするのですが、何回か行くうちに気に入って、大人になってそちらに移り住んだ方もいます。香川県だけでなく他の県の森づくりにも参加してもらえることは意義がある活動だと思えますね。

—— 学校での取り組みはどうですか。

穴吹 学校単位でどんぐりを集めて持ってきてくれるところもあります。それを苗木に交換して自分たちの学校に植えました。今から8年ほど前、瀬戸内海に浮かぶ直島なほしまというところで大きな山火事があった時にはこちらの本土の小学校の子どもたちがどんぐりを集めて持ってきて、交換した苗木を直島の子どもたちへ送っていましたね。山火事の跡地に植えてもらったり。そんな子どもたちの交流もありますね。

—— すごいですね。どんぐり銀行の成功には立地的なこともあるのでしょうか。

穴吹 香川県は全国で一番面積が小さく、約50%が山です。そのほとんどが高知県や愛媛県のような高い山ではなく、里山なんです。自然がすぐそばにあつて、どんぐりを拾う山も近い。そういう立地

に恵まれています。香川県は小さいからまとまりやすいのかもしれませんが。

しかし、里山から町に出るのはそんなに遠くはないですが、やっぱり便利な町へ移る人が多い。また香川県は林業県ではないので、人工林より竹の整備や里山の放置が大きな問題です。香川県ではシカが里に下りてくることは少ないですが、イノシシの獣害は深刻化しています。その原因は山に人が入らなくなってきたからです。

—— 滋賀県も山に人が入らないことが問題になっています。滋賀県では小学4年生で「やまのこ」学習というのがあり、森林に触れ合う学習があるんですよ。

穴吹 すばらしいですね。

行政だけでなく 民間だけでもない

—— どんぐり銀行のように行政と民間がまとまって活動されているのは学ぶところが多いのですが、20年も続けるコツは何ですか。

穴吹 私は担当になってまだ2年目です



2



1



4



3



6



5

① 竹切り体験 ② 大人も子どももどんぐり拾い ③ 集めたどんぐりを数えています ④ みんなで記念撮影 ⑤ 親子でクラフト作り ⑥ カブトムシの寢床作り

が、その時々々の担当者が、みんなに楽しんでもらいたい、喜んでもらうにはどうしたらいいか考え、ちよつとずつ改良を重ねてこられたことだと思っています。でも一番はやっぱりポランティアの方々との協力が大きいですね。県の担当は3、4年で変わりますが、ポランティアの方は最初から携わっておられる方が多い。どんぐり銀行は、多くのポランティアの方々の協力なしには運営していくことはできません。県とポランティアが協力し、お互いの得意なところを出し合っと思えばうまくいく

次の世代へつなぎたい…

— 今後の展望をお聞かせください。

穴吹

20年前にどんぐりを拾っていた子どもたちが大人になり、自分の子どもを連れてきてくれることもあります。以前よりも予算は減少していますが、ボランティアとして参加してくれる人達の裾野は広がっていると思います。イベントなどの主催は、県からどんぐりネットに変わったものもあります。県はその活動が尻すぼみにならないように後押しをしつかりする。そちらにも力を入れていきます。次の世代につなぐ活動を、県としてバックアップしていきたいですね。どんぐりを拾うだけに限らず、より多くの人を森に集めるイベントをたくさん考えたいです。

うようにしているんですよ。地元でとれるどんぐりは地元で活用していただく方が良いと思いますので…。滋賀県で拾ったどんぐりをこちらで受け入れることはできませんが、『M・O・H通信』を通してこの活動を知ってもらえるだけでもありがたいです。

— 本日はありがとうございました。



「どんぐりには、いろんな表情があるんですよ〜」屋上庭園にて。左から、若手が引き継ぐ余賤(よざい)氏、あたたかく包む穴吹氏、里山大好き坂本氏。

●プロフィール(どんぐり銀行がある香川県環境森林部みどり整備課のみなさん)

県民総参加の森つら
をめぐりて

穴吹浩之

○穴吹浩之 香川県環境森林部みどり整備課 森つくりグループ 課長補佐。1960年生まれ。昭和58年度県庁入庁。どんぐり銀行業務に携わり2年目。

元気な木林

坂本幸夫

○坂本幸夫 香川県環境森林部みどり整備課 副主幹。1964年生まれ。昭和62年度県庁入庁。どんぐり銀行業務に携わり4年目。

元気な木林を

次の世代に

余賤修平

○余賤修平 香川県環境森林部みどり整備課 主事。1990年生まれ。平成24年度県庁入庁。どんぐり銀行業務に携わり1年目。

どんぐり銀行のような取り組みが、各県で出てきています。数年前からいろんな地域からどんぐりが集まるようになったのですが、県外で拾ったどんぐりは県外の同じような活動をされている団体に預けてもら

●対談



今関 信子

児童文学者



岡部 達平

写真家・環境プロデューサー

〈教育「生きる力」〉

子どもが主役!

体操服リサイクルは 楽しくて新しいエコのスタイル

子どもたちを循環の輪の主役にしたりサイクル運動、体操服「いってらっしゃいおかえりなさいプロジェクト®」が京都と滋賀で広がりを見せています。これは、弊誌22号でご紹介した写真家・岡部達平さんが、単身で教育現場に働きかけ地道に続けてこられた取り組みが結実したもの。児童文学者・今関信子さんの手によって『永遠に捨てない服が着たい』と題した1冊の本にまとめられ出版されたことで、さらに新たな展開を迎えようとしています。ユニークな活動を展開する両氏にコラボレーションの妙味を語っていただきましょう。

- 旧大津公会堂会議室
- 2012年10月22日
- 聞き手／辻村琴美

人との出会いから 新しい何かが生まれる

辻村 教育は教科を学ぶだけでなく、地

域との関わりの中で子どもたちとともに学んだり教えられ合ったりするのをもひとつのあり方だと思います。今関先生と岡部さんのプロジェクトは、気づくことが子どもたちの「生きる力」となることの良い実例です。岡部さんと出会ったのは「京都におもしろい若者がいるよ」という今関先生の一言がきっかけでしたね。

今関 『M.O.日通信』がスタートした頃から一緒に活動していて、私自身ゴミの問題も含めて暮らしを見直そうと考えていました。そんなとき、岡部君という青年が廃材を利用してピンホールカメラを作ったいい写真を撮っている、それが環境教育と結びついているらしいと聞いたんです。岡部君がそこに至るまでは失敗の連続(笑)。環境教育をやりたいと言ってもなかなか認めてもらえなかった。でも、失敗の中から新しい芽が生まれ、思わぬ

世界が拓かれるということ子どもたちに伝えたいなと思いました。こんな人がいるとみなさんに知ってもらいたくて、辻村さんにもお話ししたんです。

辻村 弊誌に登場された頃、岡部さんはまだ試行錯誤のまっただ中でしたね。

岡部 今関先生に出会ったきっかけは、私が小学校1年生だったときの担任の先生に「おもしろい先生が講演されるから一緒に行かない？」と誘ってもらって、そこで今関先生にサインしていただいた

ことでした。「大先生なんだからサインをもらいに行くなんてやめて」と連れて行っただけだった先生に止められたんですけど、どうしてもサインが欲しくて職員室まで押しかけた(笑)。その数ヶ月後、初めて環境教育を京都の八瀬小学校でさせていただきました。まだ体操服のプロジェクトが決まる前です。

「サインをくださいなんて言ったら怒られるかな」と思いながら勇気をもって一歩踏み出したことで今関先生と出会った。その出会いからこんないろいろなことが広がっていくとは、そのときは全く想像もしていなかった。不思議な巡り合わせにすごく感謝しています。

今関 伝え聞いたところでは、一枚のいい写真を撮るためにたくさんフィルムを捨ててはいけないことに疑問を感じて、ピンホールカメラを始めた岡部達平という青年がいる。フィルムをたくさん捨てるのは当たり前のことだとばかり思っていたので、そういう発想は目からウロコでした。

そのピンホールカメラで撮った写真は、実は失敗で撮れちゃったものだった。



ただだけど人の心を動かすいい写真で。その写真がいろんな人の目に留まって…。捨てられたものから生き返る、捨てたものが宝物になるかもしれない。そう思ったら私の中で何かが動いたんです。

辻村 すごい出会いだったんですね。

今関 そのときは海のものとも山のものともつかない人でしたけど、岡部君をみていると「もしかしたら、面白いことゝが起るかもしれない」と思えてきて(笑)。

岡部 あはは、本当にそうでした。

今関 とにかく失敗の中から新しいものを生みだすエネルギーを伝えたいと思って、出版社に話をしたら書かせてくれることになったんですよ。でも、その時点ではまだ活動が足りなかった。これは本にならないからと「活動のこの点はどうした?」「こっちはどうするの?」とひとつひとつ岡部君に聞き続けました。彼が「体操服!いつてらっしやい、おかえりなさい」プロジェクトという言葉を考えついたのも、私が「キャッチフレーズがないと書けない。あなた、いい言葉



思いつきなさい!」という風にせっついたらから(笑)。そうやって岡部君はいろいろ考えて具体的に動かないといけないと思うようになっていったんです。

👔 第一印象は「胡散臭い」?

辻村 今関先生との出会いで、活動はうまく動きだしましたか?

今関 いえ。彼は教育現場に入っていかなければと考えてあちこちの学校へ出向

「ぼくって、そうだったのかな?」岡部氏 「そんなことないわよ」今関氏
くんですが、どこも話を聞いてくれない。京都の御所南小学校の先生には「胡散臭い青年がまた来た」と思われたり(笑)。

辻村 胡散臭い!?

今関 ええ、何度も何度もしつこく説明に来るからそう思われたんですね。実は…初めて私の講演会に来たときも胡散臭かった!普通はもう少し遠慮がちに寄ってくるのに、岡部君は自分の思いをあふれさせてどんどん迫ってくるの。講演会でもどこでもついてくるのよ、「かばん持ちします」って。私が「かばん持ちなんていらない。いままで一人で活動してきてどこへ行くのも自分で行ってた」と断っても、「ご案内します」なんて言って必ずついてきて、そのへんでウロウロウロウロして。内心「うっとうしいなあ」(笑)と思ってましたよ。でも、彼の熱心な姿をみているうちに気持ちが変わりました。後になつてから、御所南小学校の先生が「彼はぶれなかった」と言いました。いつでも大事なことを「大事だ」と言い続けていたからです。



左から、京都市長の門川氏、岡部氏

辻村 なるほど。

岡部 今関先生の話を聞いて、いまちよつと落ちこんでます(笑)。

今関 御所南小学校の校長先生が私の講演会に来てくださった折に、岡部君の話をしたことで、胡散臭いんじゃないかと本当に一生懸命環境のことを考えている青年なんだと信頼してもらえた。一人の先生の心が動いた。一人の校長先生の未来を見通す目と勇気のある決断があった、そこから動き始めました。

人と人の出会いっておもしろいんですよね。見ず知らずだった二人が出会ってこんなに協力しあえるようになって、お互いの活動を応援しあう関係になるなんて不思議だなあとつくづく思います。

👕 粘り強さで教育界と産業界に風穴を開ける

辻村 岡部さんの粘りがあって教育界の壁に穴が開けられたんですね。その粘りはいつたどこからきているんですか？

岡部 自分のためにやっているという感覚がなかったんですよ。体操服プロジェ

クト以前に、清水小学校で授業をしたことがあって、そのとき「永遠に捨てない服」を着ていたんです。そしたら、授業の後で女の子二人が「うちらも先生と同じ、永遠に捨てない服が着たい」と言ってくれた。その思いに応えたいとずつとやってきました。強引に学校で何かをやってもらおうというのではなくて、いつか理解してもらえたらいいなあと思って。自分のためにだったら、あんなに粘れなかったと思います。

今関 だけど、人々に一生懸命伝えようとしているのに、やってもやっても成果につながらないときってね、本当にへこたれるでしょう。私は今回の作品『永遠に捨てない服が着たい』で、何事もトンと順調に行くわけではないんだよということを書いておきたかった。

辻村 活動はどう展開したんですか？

今関 彼の粘りでいろんなものが結びついていって突破口ができました。産業界の人たち、いわゆる「業者さん」と呼ばれるいろんな利害関係がある人たちとも接点をもつて、行政の人も含めて志を同じくする人たちがいるということがわ



体操服「いったいおかげが」プロジェクト®贈呈式。御所南小学校

かったです。

偉い人なら誰とつながればいいのかをわかって、要となる人にすぐにたどり着けると思うんです。ところが、岡部君は初めの頃、ただ行つては断られるの繰り返し。だけど、彼がしていることをアイトワの森さんや『M・O・H通信』の森代表がみてくれていて、そういう方たちに支えてもらえた。いまの暮らしのままいつたら危ないと考えている人たちがいて、岡部君がやっていることは間違いない、手を貸してやろうという人な人になんていってくれたんです。京都の門川市長はどこで出会ったんだっけ？

岡部 ある校長先生が「門川市長と一緒にトイレ掃除に行っているのでおまえも来い」と連れて行かれたんです。最初は嫌でねえ(笑)：トイレに素手を突っこむのは抵抗がありましたから。行きたくないな、行きたくないな、でもいつもお世話になっている校長先生だから一度行ってみようかなと。そこで門川市長に紹介をしていただきました。門川市長も2年間くらいかけてたくさん説明をして、ちよつとずつ水が溶けるように心を

開いてくださったという感じですね。

僕は「この人がこの運動にとつて重要な人」というのは全然わかりませんので、門川市長にも校長先生にも一般の人にも同じように説明しています。そういう僕のために何かしたいと思つてくださった方がいて、門川市長に出会わせてもらえたのだと思います。

「カッコいい」という感覚

辻村 そもそも岡部さんは何がきっかけで環境問題に興味をもったんですか？

岡部 一緒に住んでいる祖母が「シンプルに生きるのにはカッコいい」という生き方をしていると子どもの頃から感じていたから：かな。それと、中学生のときに買ってもらったパタゴニアのフリースがペットボトルからできていて「堅い透明なものからこんなに暖かいものができるんだ。カッコいいなあ」と潜在的に思っていました。その方がカッコいいなあという価値観が根本にありましたね。

今関 今の若者たちの価値観って「がんばってエコ」じゃないみたい。



「子どもたちの心をとらえたのよお」

辻村 もともとエコ活動したいと？

岡部 そんなこと全然思っていないんですけど。ボランテアが好きというわけでもなかったです。体操服を捨てるよりもリサイクルして受け継いでいった方がカッコいいなあというのが原点でした。

今関 彼は粘り強いけど理屈屋ではないのよね。体を動かしていく中で感じとっ

ていくというか、言葉でバツと決めてしまわないで、日常の暮らしの中で気がついていく人。普通の人。

岡部 ほんまにそうです(笑)。

今関 失敗してもめげない。ちゃんと自分の足で歩いて、生活の中で何かを切り開いていく。彼を信じてくれる人たちは、彼の真面目さや着々とやっていくところを信じたんだと思います。

辻村 どうして体操服だったんですか？

岡部 もちろんボタンが付いていないとか技術的な理由もあるのですが、単純に制服でやると小学校や幼稚園で取り組めないなと思っただけです。じゃ、小学校から高校まで全部あるのは何かなと思っただけ体操服だったということですよ。

子どもたちがリサイクルの中心となるための工夫

辻村 体操服プロジェクトは滋賀にも広がってきているんですか？

岡部 やっと動き出そうとしているところ

です。これからどう飛躍させていくかいろいろ考えています。

今関 守山では体操服プロジェクトをやる前に、まずは子どもたちに環境教育の大切さ、地球温暖化がどういうことになっているのかも含めて伝えて欲しいということになりました。子どもたちに自分たちが参加するプロジェクトがどんなにおもしろいものかをわかっただけで、うことが大切なので、岡部君の環境教育が学校の授業に取り入れられました。

辻村 確かに、ただプロジェクトを押し進めるのではなくて、その意味が正しく理解されなくてはいいですね。

今関 子どもたちが体操服を捨てる、いろんなところを経てきれいな体操服に再生されて、お母さんがそれを買って子どもに着せるというのでは、体操服が大人の世界でグルグル動くだけ。その循環に子どもが喜びを持って参加していくためには、子どもの位置をどういう風に置けるかが問題です。

辻村 展開の仕方によっては、プロジェクトに子どもが直接関わらないという可能性もあるわけですね。

今関 子どもたちがしつかり体操をして、思いっきり遊んで、学校でいろんなことをして汗で汚れた体操服がないとこのプロジェクトは回らない。そのことをきちんと子どもたちに伝えなくてはいけない。「あなたたちが力いっぱい遊んだり体操したりすることが、実は地球のために役立つているんだよ」「地球はいま温暖化しているでしょ。それにはこういう理由があるんだよ」ということを、岡部君はいま学校で子どもたちに話しています。

辻村 具体的にはどんな風に？

今関 一人分の体操服を循環させることで二酸化炭素がドッジボール8個分減らせる。子どもたちに理解しやすいように見える化して子どもたちに説明します。御所南小学校では、子どもたちが目にしやすい場所にドッチボール8個が積みあげられています。そうした取り組みをあなたたちが毎日の生活の中でやり続けるのはすごいことなんだ。私たちも楽しく暮らせると子どももの言葉で話す。私は岡部君と一緒にプロジェ

クトをそうやって進めていきたいと考えています。

岡部 子どもが中心になるのは、集め方にもよると思うんです。いまリサイクルというところ、回収ボックスを置いてそこに入れていくのが主流ですが、このプロジェクトをプロデュースする上で回収ボックスはよくないと僕は思っています。

学校でやるなら、やっぱり子どもたちが担任の先生に手渡す。担任の先生は受けとって「よくがんばったね」「よく体を動かしたね」「ものを大切にしたいね」「捨てなくて偉いね」と言ってあげる。それが日々の環境教育だと思っんです。毎日接する先生とコミュニケーションをしっかりとって、先生が教える。体操服のリサイクルを教える伝道者は学校の先生の人数分、日本中にいると僕は思っています。ぜひ現場の先生にも参加していただいて、子どもも参加して、もちろん体操服を製造するメーカーにも参加していただいて、みんなでものを大切にする場を作っていきたいです。

「カッコイって、いいでしょ?」

新しいエコ

今関 東京の集まりで「このエコはみすばらしくない」と言われました。ものを大切にする心はいんだけれど、着古した服をまたきれいに直して「おたくの子、着ない?」といった今までのリサイクルと違って。本当にものを大事にするのと



は違うかもしれないけれど、今の時代の、新しい発想の新しいエコというものがあ
るのかもしれないという気がしています。

辻村 がんばらないエコっていいの
いですね。

今関 それとは別に、岡部君には太陽の
ことを環境学習で話してもらいたい。体
操服の話だけでは本当に大事なことを
子どもたちに伝えられないですよ。彼
がなぜこのプロジェクトにたどり着いた
かというところ、ピンホールカメラを通して
太陽に会って感動したからなんです
太陽ってすごいよ、私たちに必要なもの
を太陽の光は全部くれているんだよ。昔
にくれたものが石油や石炭になってい
て、私たちはそれを貯金みたいにもつて
いる。太陽がくれた貯金をじゃんじゃか
使っていると、やがて空っぽになって貯
金ゼロになってしまう。そうならないた
めに、太陽からもらうエネルギーと私た
ちの暮らして使うエネルギーがちゃんと
バランスよくなるように、自分たちの暮
らしを立てていく方法をどこかで考えな
いとだめだよってことを、岡部君の言葉
で子どもたちに伝えてもらいたい。そこ

から石油に頼らない暮らしがみえてくる
と思うんです。

👔 さまざまなアプローチ

辻村 循環型社会システム研究所では、
地域経済の復興にむけて作る人を育て
買う人を育てるようなネットワーク構
築を目指しています。学ぶ場となる地
産地消大学校や滋賀県の特産品が一堂
に揃うスペース、研究機関をつくりたい
と考えています。これについてはどう思
われますか？

今関 ぜひするべきだと思うけれど、少
し柔らかく考えてもいいかもしれません
ね。地産地消は絶対に市民に伝えないと
いけない大事なことです。だからこそもつと具
体的にして、子どもも「へえ、そんな
だ」とびっくりするようなおもしろいこ
とを考えていつてはどうですか。

岡部 もう少し、純粋に楽しいとか興奮
するっていうようなことが必要かな…。
今関 彼が言うように精神主義だけで
なく、ごく普通に「それっていいよね！」
と自然になっていくような仕掛けを考え

ないといけないでしょうね。

辻村 そうしたアプローチとして、通算
3回目となる「よばれやんせ湖北」を今
秋開催しました。生産者と消費者の交流
会でビワマスや鹿肉のジビエ料理、大豆
の伝統食などがいかに作られているのか
を食べる人に知ってもらいたい。

岡部さんの活動は、循環のサイクルを
体操服で表しておられて、思うところは
弊誌と同じと感じています。

今関 ずいぶん時間がかかったけれど
も、『M・O・日通信』が大事にしてきた
「もつたいない、おかげさま、ほどほどに」
の結果がいまプロジェクトとして動き出
している。その精神は、多くの人の宝に
できるものと証明されたのではないか…
『M・O・日通信』の書き手の一人として
ちよつと誇りに思っているんですよ(笑)。
辻村 ありがとうございます。最後に、
これからに向けては…

岡部 現場に答えはあると思うので、こ
れからも現場の先生方と一緒に考えてプ
ロジェクトも自分も磨かれていくように、
これからもこういう生き方を続けていけ
るようにがんばっていききたいです。



互いの成果物を手に、満面の笑み

今関 『M・O・H通信』での出会いから生まれたプロジェクトです。みんなにこういう青年がプロジェクトをやっていること、こういうことをやっている学校もあることを意識して、いつてもらいたい。応援して下さい。

おにきまき

今関 信子

●いまぜき のぶこ 1942年、東京生まれ。東京保育女子学院卒業後、幼稚園教諭となる。7年間保育者として働いた後、創作活動にはいる。日本児童文学者協会理事。

〈主な著書〉『小犬の裁判はじめます』1987 童心社 青少年読書感想文コンクール課題図書。『さよならの日のねずみ花火』1995 国土社 青少年読書感想文コンクール課題図書、厚生省中央児童福祉審議会推薦文化財。「地雷の村で」(寺子屋) 2003 PHP 研究所など多数

※ピンホールカメラ(針穴カメラ)はカメラの元祖。まち針で、0.3ミリメートル程度の非常に小さな穴をあけた物を、レンズの代わりに使用します。一般的なカメラと比較すると、撮影時間は長く、動いている被写体は撮影できません。しかし、独特の柔らかな写真が撮影できます。

エコで出遇う

岡部 達平

●おかべ たつへい 1979年、京都市生まれ。大学生だった2000年写真家伊藤敦友氏に師事し写真を学ぶ。その後、空き缶や空き箱などをリサイクルしたピンホールカメラを作製。2003年パタゴニア社副社長リック・リッジウェイ氏との出会いをきっかけに本格的に創作・発表活動を開始。現在、このカメラで「京都の空」を撮影するかたわら、写真展、講演会、ワークショップなどを行う。また、京都市教育委員会のゲストティーチャーとしてエコ授業を行っている。2005年からは「チームマイナス6%」に参加、温暖化防止や身近でできるエコを呼びかけている。

ざいけとくど 在家得度のススメ

小林 隆彰

比叡山延暦寺 長膺(ちようろう)

人生の折り返し点を迎えて早幾年月…。熟年人生の生きがい
を求める人も多いのではないのでしょうか?仏の教えに耳を傾け、
自分に向き合うことも大切ではないのでしょうか。



夕暮れの比叡山

「得度」という熟語の意味は正しくは、「度牒を得る」という意味です。度牒とは、一般社会、すなわち、在俗の生活から出家して僧(男僧、尼僧)になる儀式を受けた証明書で昔は諸税を免ぜられました。

得度した。とは、世の為人の為に盡します、と、み仏や社会に対して約束したことなのです。

インド、中国を経て日本では奈良時代以降この制度が現代まで続けられています。平安時代以降、多くの宗派にわかれて発展しましたが、現代では、僧侶以外の仏教徒が普通の生活をして死を迎え、葬儀式のとき、僧侶から「おかみそり」を受け、戒名や法名をつけていただいてお位牌にします。これは臨終得度と言われるもので、来世はみ仏のもとへ行き、み仏の教えをうけ、慈悲の心をいただいて、何処かの世界へ生まれ出で、多くの衆生(すべての生きもの)の為に、み仏の教えを説きます、と約束をする儀式なのです。

これを葬儀式と申しますが、現代の仏教各宗派では、死後では遅いとして元氣

な間にこの得度式を受けるように薦めて
います。

在家とは、普通の生活をするという意
味ですが、得度というのは自分以外の為
に盡します。と、み仏と、すべての生きも
のに対してお誓いをする儀式なのです。

とくに在家得度とは、僧(尼)になら
ずとも、一般の経済生活をしながら、自
分中心にのみ考えず、少しでも、他の為
に、と心掛け、諸仏、諸神、諸菩薩を敬
い、み仏の教えを聴聞し、朝夕、感謝と
お誓いの生活をします。と、み仏に約束
をする儀式です。

比叡山は開山千二百年以来
最澄、慈覚、智証各大師を始め、
法然、親鸞、栄西、道元、日蓮、などの
日本仏教の各宗お祖師様を輩出した霊
山で、現在も、新しい仏教教団の帰依所
でもあります。

その比叡山では、十二年籠山修行や千
日回峰行が変わることなく行われていま
す。正に、専門僧侶の養成道場と認識さ
れています。

その中で、僧尼にならずとも、み仏の
慈悲を信じ、み仏の教えを聴き、少しま

もみ仏に近づこうと願う人々が限りなく
居られます。

その人びとに呼び掛け、得度の儀式を
受けていただくこう、というのが比叡山の
在家得度なのです。

得度は、仏前における儀式をもって現
実化します。得度とは読み替えると、み
仏さまとの約束なのです。その約束の心
は、比叡山で十二年籠山する僧侶と少し
も変わりません。その心とは、すべての
生命を大切にします。盗みはしません。
人の道に外れたことはしません。人の悪
口は言いません。余り欲張りません。な
ど、ごく一般の社会通念を学び、行うよ
う努力します。と誓うことなのです。

これは葬儀のとき、おかみそりをいた
だいて仏門に入り、来世にみ仏の教えを
聴いて成仏するという儀式を生前に行
い、生命あるうちに、誰かの為、世間の
為、と、為々という字を自分の頭から少
しても他の為に、と心掛けて生活する出
発点を在家得度と名づけています。

仏教は八家九宗と言われるように広
範です。ご縁のあるところでこの儀式を
受けてください。比叡山でも例年行って

います。

前世はとり返しがつきません。
現世が肝心です。そして、明日がある
ように死後も必ず、来世があります。明
日の為に、そして、来世の為に、み仏の
み子になってください。と、念じ、願って
います。

お遍のころ
比叡山

小林隆彰

●こぼやし りゅうしょう 1928年、
香川県善通寺市に生まれる。1952年、
比叡山専修院卒業。1955年、延暦寺一
山千手院住職。比叡山延暦寺執行、延暦寺
学園叡山学院長、延暦寺学園所長など要職
を務め、現在は延暦寺長職。主な著書に『生
きている観音経』(芝金堂)、『智証大
師円珍』(東方出版)、『比叡の心』『花
咲け人咲けいのち咲け 歩けななくても心咲
け』(紫雲堂出版)など

●比叡山延暦寺 所在地 / (総務部) 滋賀
県大津市坂本本町4220 〒520-010
116
TEL. 077-578-0001 (代表)
<http://www.hieizan.or.jp/>

いま、子どもたちにも 何が必要なのか



押谷 由夫

昭和女子大学大学院教授

道徳教育の大切さを熱く語ろう

不透明な時代。不安は尽きません。だからこそ確かな未来を求めて、子どもの教育に目が向けられます。そして、学力育成の重視。その学力も、社会の変化に主体的に対応できる知識や技能が強調されます。確かに、それらは重要です。しかし、何か足りません。未来を生きていくのは、子どもたちなのです。子どもたちの幸せ感と一体となったところに、それらの知識や技能の獲得がなければなりません。それには、何が必要でしょうか。いうまでもなく、人間としての心を育てることです。

1 健全な価値意識が 幸せな人生と社会を創る

子どもたちは感じることができます。考えることができます。表現することができます。それらを自由に行えることが人間の特徴です。そしてそのことが、人間の幸福や社会の発展をもたらします。しかし同時に不幸をももたらします。なぜでしょう。

目的意識にかかわって、満足感が違ってくるからです。心の充実感や満足感が得られる感じ方、考え方、表現の仕方を身につけてこそ、幸福や社会の発展をもたらすのです。それを一言で言えば、健全な価値意識を身につけることです。それは、良心といつこともできます。人間としてよりよく生きようとする心。その心の実現にかかわって夢や希望をはぐくみ、感じ、考え、表現する力を身につけていくとき、人々の幸福やよりよい社会の構築へと結びついていきます。

2 道徳教育の大切さを 熱く語り続けよう

このように大切な道徳教育であるのに、学校においても、家庭においても、地域においても、おざなりになっていきます。なぜでしょう。危機意識が足りないのです。何とかなるだろうではなくなりません。

今日の社会は、人とかかわらなくても快適な生活が送れます。個人的わがまが許される社会になっています。そのよくな中では道徳が極めて育ちにくいのです。法律がだんだんと厳しくなっているのは、そのことを端的に表しています。



このままでは、ますます管理的な社会になっていきます。今こそ一人一人の道徳心の高揚が必要なのです。

また、今日の競争社会は極度のストレスを生みます。勝つか負けるか、敵か味方かを常に意識させられます。そのよくな中において、互いに信じあうこと、助け合うこと、協力し合うこと、分かち合うことの大切さを訴えねばなりません。

さらに、科学技術教育の重視は、思考形式に重大な変化をもたらします。新しいものに価値を置く思考、客観的・批判的思考の重視です。これらは大切ですが、極度に求められると、古いもの・既存のものが忘れられていきます。また、温かな情的思考が無視されます。それでは、社会はますます不安になり、人間関係も冷たいものになっていきます。科学する心と道徳心との調和が求められるのです。社会の安定や心の健康は、健全な価値意識をもつことよって可能になることを、私たち大人は、具体的体験をもとに熱く語り続けられるようにすることが強く求められるのです。

3 子どもたちへのメッセージ —夢、希望、そして未来へ—

そこで、私なりに子どもたちへのメッセージを考えてみました。

おい夢

あなたは 魔法のつえ

私の心を わくわくさせる

あなたは 希望の星

私の心を よみがえらせる

あなたは 勇気の源

私の心を かきたてる

おい夢

そんなに遠くに 行かないで

いつも 私のそばに いておくれ

あなたと じゅうけり

話し合いたいから

あなたと 思いつきり

たわむれたいから

そつして あなたとともに

歩みたいから

子ども時代は、自分の未来を切り拓いていくための基礎力を身につける時期です。その水先案内をするのが夢です。夢をもつことのすばらしさと、夢とともに生きるこの大切さを訴えてみました。皆さんも子どもたちへのメッセージを考えてみて下さい。

夢、希望
そして未来
押谷由夫

●おしに よしお 1952年、滋賀県長浜市生まれ。滋賀大学卒業後、広島大学大学院で学小(教育学博士)。四国の大学に勤めたのちに文部科学省(当時は文部省)に赴任。道徳教育を担当する。その後、昭和女子大学に勤め現在に至る。日本道徳教育学会副会長、小さな親切運動本部顧問等。著書多数。



2012年10月27日から開室した「かめの部屋」の様子（Aコープ今津店キッズルーム）

「かめの部屋」で 絵本と出会う

平松 成美

NPO法人絵本による街づくりの会
理事長

大人こそ絵本を

あなたが絵本に出会ったのはいつですか？ 私が子どもの頃は絵本の世界で遊んでいました。成人し子どもを授かると子どものために読んで聞かせたものです。今、大人になって自分の心の中をのぞいてみると、何かを忘れていたような気がしませんか？ 絵本は心の漢方薬です。じわじわ～と自分の心をいたわりましょう。



命名の由来となった金尾恵子さんの絵

「かめの部屋」とは ——命名の由来

2009年
5月5日、「
「絵本がとり
もつ居場所つ
くり事業」を
始めるにあたり、画家で絵
本作家の金尾
恵子さん（本

「かめの部屋」は、「絵本と人」「人と人」が繋がる場です。

「かめの部屋」は、赤ちゃんから高齢者まで、みんなの居場所です。

「かめの部屋」には、絵本、紙芝居、折り紙や手作りおもちゃをおいています。

「かめの部屋」での過ごし方は自由です。

「かめの部屋」で過ごす、みんな笑顔いっぱいしあわせいっぱいになります。

赤ちゃん、子ども、子育て中のお母さん&お父さん、おじいちゃん&おばあちゃん、みんなで交流しましょう！ 世代を越えた交流には、新しい発見がありますよ！



会設立当初から絵本原画展や講座でご協力いただいているが、本事業に共感してくださり、活動に役立つのならということ、50号のかめの絵（タイトル「春を待つ」）を本会に託して下さいました。この絵を入り口正面に飾り、居場所のシンボルとすると共に、絵本のある交流スペースの名前を「かめの部屋」と命名。ゆっくり、あせりず、息長く（長命）と、思いを「本会の活動」や「この部屋の利用者であるごちもの育ち」や「まちゆっくり」に込めました。

かめの絵のタイトル「春を待つ」は、本会設立時からのものである「活動拠点としての絵本美

【お薦めの本（絵本）】

■ ぼちぼちいこか



マイク・セイラー/作
ロバートグロスマン/絵
今江祥智/訳、偕成社
何をやってもうまいかない時、「こちでちょっとひとやすみ。ま、ぼちぼちいこかー」ということやの言葉が気持ちを支えてくれます。

その他に、大切な人（ペット）を亡くした方に『わすれられないおくりもの』（評論社）『千の風になって』（講談社）『いぬはてんごくで…』（偕成社）など。

大人のための絵本ガイドブックとして

■ 砂漠でみつけた一冊の絵本



柳田邦男/著、岩波書店
一冊の絵本が人生を変えるかもしれない。人生の体験を経て発見する、絵本の豊かな世界へ「絵本は人生に三度」を提唱する。

■ あなたがうまれたひ



デブラ・フレイジャー/作、井上荒野/訳
福音館書店



2



1



4



3



6



5

あふれる笑顔 ① 第1期かめの部屋(2009年5月~10月) ②~⑥ 第2期かめの部屋(2010年7月~2012年9月)

絵本で心を育む

願いは、常設のかめの部屋(本会の活動拠点)に「するあ」です。

「絵本から広がる『出会い・体験・感動』を合言葉に、「子どもの笑顔があふれる街に」「豊かな心を育む街に」をめざして平成16年(2004)10月にNPO法人を設立して、今年秋に9年目を迎えました。

絵本大好き・子ども大好きな仲間11人

「術館の開館」の実現(11春、芽吹きの時期、スタート)と重なり、期せずして、活動拠点実現の第一歩にふさわしい「シンボル」となりました。

これ以降2010年7月~2012年9月までは、ダイサービスセンターしぶくの杜の地域交流スペースをお借りして、開室しました。(第1&第3土曜日の午後1時~3時)

また、今年の10月27日からは、Aコープ今津店のキッズルームをお借りして新たな場所で開催しています。(毎週土曜日午前10時~12時)



M・O・Hで広がれ! 子どもたちの 心のフィールド

小学校「生活科」で求めるもの

西嶋 頼基

滋賀県小学校教育研究会 生活科部会 副研究委員長
(多賀町立多賀小学校教諭)

6才から12才、多感な子どもたちが学ぶことは多い。
小学校低学年には、「生活科」という教科がある。具体的活動や体験を通して、子どもたちはこの教科で何を学ぶのでしょうか。

ある生活科の授業の「マ」

「この手紙、ちゃんと相手に届きますか？」小学校2年生の子どもたちが、少し不安げに郵便局で局員のおじさんに尋ねました。子どもたちが持ち込んだ葉書とは、官製葉書をまねて画用紙を自分たちで切って作ったものでした。以前、ディスプレイセンターで交流したお年寄りから手紙が届き、その返事を書いた手製の葉書です。

お年寄りからの手紙をもらった子どもたちは飛び上がるほど喜んでいましたが、いざ返事を書くことになる、手紙の出し方、宛先の書き方、切手の購入場所など、わからないことがたくさんありました。子どもたちは、何とか友達と作り上げた葉書をたくさん持って、手紙を出すための疑問を確かめようと郵便局にやってきました。

郵便局員のおじさんは、子ども



たちが一生懸命書いた形のふぞろいな葉書を見て「もちろん届くよ！大丈夫です。でも切手を貼ってね。」とこたえてくださいました。郵便局員の「お墨付き」をもらった子どもたちはうれしくて大爆笑。さらに目を輝かせながら、さっそく切手を買い求めて大事そうに「特製葉書」に貼り付け、意気揚々とポストに投函していました。



この授業には子どもたちの様々な『気づき』がありました。例えば、友だちと一緒に問題を解決していく楽しさや、できなかったことや経験したことがなかったことを自分たちの力で解決し成し遂げられた達成感等です。小学校低学年で学習している生活科では「生活」の名のごとく、生活する力、生きる力を育むことが教科のねらいです。小学校生活のスタートをスムーズに切るために、幼稚園との連

携を重視したカリキュラムを作成して学習を行うことや、中・高学年と連続した学習の基盤作りを大切にしています。様々な体験活動を通して気づいたことを表現活動につなげて、子どもたちの生活力アップを狙った学習を行います。



ここでは生活科と循環型社会のコンセンサワードのM・O・H（もったいない・おかげさま・ほどほどに）とを重ね具体的事例を交え生活科を紹介します。

生活科の『もったいない』

子どもたちの経験してきたことや、これまでの学習してきたことを生かし切れていない学習計画を組み立ててしてしまふことは、まさに『もったいない』取り組みと言えます。例えば、小学校に入学して、子どもたちは学校での生活



の仕方を学びます。その一つに掃除や片付けは、たくさん経験してきているので、子どもの育ちに合った、小学校でのやり方を積み上げ、子どもに自信を持たせることが大切です。経験のある取り組みを学習に活かしていくと、子どもたちに安心感が生まれ、学校や学校での学習に対する不安も和らぎます。就学前教育との連続性を大切に小学校でも生かすことで自信にもつながるでしょう。これまでの生活経験や学習してきたものを使わないなんて『もったいない！』

生活科の『おかげさま』

生活科では子どもたちの主体性を重視して学習活動を組み立てます。例えば、生活科の授業では、子どもたちに「先生！ポスツの色は何色？」と聞かれても、「それは赤ですよ。」と率直には

答えません。ちよつと寄り道をした支援

をしています。「知っている友だちに聞いてみたら？」とか「みんなで実際に、見に行ってみよう」とか、自分の疑問に対する答えを探すのは、やはり子どもたち自身になるような学習活動にしていきます。友だちに聞くことで、友だち同士のコミュニケーションが生まれたり、実際に見に行く道中の安全学習もできたりと、学習活動に幅が広がります。また、実際に見に行ってみて「ポストって赤だったね」と結論を出してしまう前に「この色、本当に赤？」「何のためにこの色なのかな？」と子どもたちの頭の中の考えをさらに深めて、子どもたちの思考が広がっていくことを期待しています。生活科では先生は『おかげさま』の『かげ』です。先生が『かげ』に徹するほど、子どもたちからは独創的なアイデアや意見が飛び出します。子どもたちが生み出した、その独創的なアイデアは、子どもたちの自主性を重んじた証拠なのです。私も指導者として、自分が予想する以上に子どもたちの発想や考えの広がりなどがあり、学習がより深まる

ことほどいいことではありません。

生活科の『ほんほん』

生活科では体験活動を一連の授業計画の中に必ず取り入れます。実体験なくして子どもたちの生活と密接な「気づき」は生まれなからずです。しかし、体験活動が授業のメインになりすぎる授業や、体験活動のみの授業になり、子どもたち
に感想を聞くと「楽しかった」だけになってしまった…それは授業のねらいが不十分で体験活動の時間が長くなりすぎていたことや、子どもたちにとって楽しい活動のみの取り組みだったことが考えられます。『ほどほど』のタイピングを指導者が見つけ、話し合いや意見の交流などで、言葉、絵、発表会などで、考えの共有や確認を行います。体験活動の中で子どもたちのアクティブな動きも生活科で大切にしたい表現活動の一つですが、こういった話し合いでの子どもたちの発表方法や様子、コミュニケーション力も充分に見取りたい表現活動といえます。この話し合いを取り入れることで自

分の気づいていない友だちの工夫や考えに触れることができ、自分の活動や考えを深めることに役立ちます。家庭でもお手伝い、食事、旅行など、体験活動の場がたくさんあります。活動が続いたら、ほどよい場面で立ち止まり「お手伝いしてみてもうだった？」「今日の食事のお味は？」「どこが一番楽しかった？」など、家族のコミュニケーションの時間を持ってみてください。きっと、子どもたちの体験への思いが深まると思います。

広れ心のフィールド 西嶋頼基

●にしじま よりもと 1978年滋賀県長浜市(旧湖北町)生まれ。創価大学教育学部卒業。現在、多賀町立多賀小学校教育研究。2011年より滋賀県小学校教育研究会生活科部会 副研究委員長。2012年、教員民間等派遣研修を3ヶ月間、新江州(株)で行った。



海津の石積み(琵琶湖岸に約1.2kmにわたって続く)

海津ウォーク

地元の町歩きガイドをすることからが、
始まりか？

◆日 時 / 2012年10月6日(土)

◆場 所 / 滋賀県高島市マキノ町海津

江戸期に築造された石積みは、当時の物流の拠点としての「港町」の面影を残しています。滋賀県で2番目の重要文化的景観に選定された「高島市海津・西浜・知内の水辺景観」は、高島市マキノ町海津・西浜・知内の湖岸一帯および知内川と琵琶湖を含む約1,842ヘクタールです。選定地域には、琵琶湖をはじめとする河川や内湖のほか、湖岸の石積みや共同井戸、知内川で続けられている伝統的なヤナ漁など、多様な水文化が現在も存在しています。

◆参 加 / 6人

◆主 催 / NPO 法人コミュニティ・アーキテクトネットワーク(環人ネット)

◆レポート / 本田 明



① 石積みと個人宅への入り口 ② 橋板 琵琶湖が地流し? ③ イケ(公共の水場)奥に井戸、手前が中水利用

北前船航路が江戸中期に開かれ、日本海の産物が下関周りで直接大阪に入るようになります。それまでは、日本海の荷物が敦賀で陸揚げされ、七里半越えという日本の分水嶺を越えて海津へ、そこからびわ湖の水運を使って大津、京都へと

「海津は、江戸期までは海運商業都市」

※「ふるさと」は遠きにありて思うもの…といいますが、「地元」は近くにありて慈しむものです。どうすれば住民を元気にし、地域を活性化できるでしょうか? まずは、住む人が自分の住む土地を知ること、客人を案内することから始まります。その一例をご紹介します。

資が流れていました。

「その面影を残す、一・二キロに及ぶ湖岸の石積み」

延々と続く石積み、それらは形も石の種類も積み方も様々。城のように、当時の権力者が一斉に工人を集めて造ったものではなく、営々と続く民衆の努力の結晶がこのような不ぞろいさとして現れているのでしよう。その様々な形の中にこそ海津町衆の、今日にまで続くふるさとへの愛着を汲み取ることができます。

「イケ」

都市的な産物。日本の都市のめまぐるしい発展や衰退の中で、地域共同体の水場が往時のままの姿で残っている事は珍しいのです。そしてここでは、今もなお「池仲間」が存続し、「コイを泳がせ、定期的な清掃活動が続いています。人の組織と「イケ」としての形の両方がここには今も残っているのです。

「橋板」

淡水で潮の満干もないびわ湖だから、



④ こんな形で説明 ⑤ 町並み景観 吉田酒造店舗 (重要文化的景観の重要景観要素に指定されている) ⑥ ちょうど浜辺のコスモスが花盛りだった ⑦ 案内看板も整備されつつあります ⑧ 湖魚民宿吉平で、湖魚づくしの夕食

これができるんです。水という自然の恵みが、形となった素晴らしい造形物です。そんなことを力説されていた現嘉田滋賀県知事から聞いた言葉を引用したりします。

「きゃんせ」

などと、解説しながら町歩きをするようになったのは、平成二十年、私の住む地域が、国の重要な文化的景観に選定され、その団体の役員となって知識を増やしてからです。先日は、環人ネットの理事の方々と一緒に、海津町歩きをしました。その後は、地元で湖魚づくしを提供してくれる民宿でお食事。目と耳と舌で、かけがえのない「淡水」と「びわ湖」を感じて頂けたらと思うて企画

しました。

今はそれらの地域資源が、経済的利益に結びついていません。地元の方の多くが、長年慣れ親しんでいるがゆえに、それに価値を見出していないことも否めません。重要文化的景観とまちづくりとの関係は、まだまだ暗中模索という状況です。十一月四日には、初めて地元の漁師さんや商業者さんとタイアップして、「きゃんせ海津」というイベントを開催しました。初めの一步(半歩?)を踏み出したばかりです。

※室生層星小景異情―その二より

気楽に行こうぜ俺たちは…
のんびり行こうぜ俺たちは…

(昔のCM)

吉田明

●ほんだ あきら川岐早高専建築学科を卒業して35年、設計事務所を振出しにずっと建築畑。12年前に父の後を継ぎ今はその会社の代表、といっても従業員一人。別荘を設計から完成までお客様と一緒に造るのが近年の主な仕事。市の工事の設計も時々手掛ける。



① 「里山の森林が琵琶湖を支えるんですよ」只木氏の講演

「わたしたちが創る」—くつき
「山のめぐみフォーラム —里山と水—」
開催されました。
～ フォーラム&郷土料理の夕食会+懐かしいロック・フォークの音楽会 ～

◆日 時 / 2012年9月22日(土) 13:30開場

◆場 所 / 森林公園くつきの森「やまね館」(高島市朽木麻生443)

◆内 容 /

■第1部 フォーラム

基調講演「里山のめぐみ—これまで、そしてこれから—」講師:名古屋大学名誉教授 只木良也氏
現地散策「森が育む水のめぐみを里山・集落散策で確認する」案内:地元のみなさん

■第2部 夕食会+音楽会

丸八百貨店のお母さん手作り、朽木の郷土料理を楽しむ夕食会
高島市民バンド「アビーロード」による懐かしのロック&フォークの音楽会

◆参加者 / 80名

◆主 催 / NPO法人麻生里山センター

◆後 援 / M・O・H通信、太陽生命保険(株)、公益財団法人森林文化協会



2



7



4



3



5



6

2 くつきの山里を散策 3 山菜の煮物 4 いとこ煮 5 私の好きなもの。手前がサバ寿司
6 只木氏の著書 7 音楽とキャンドルが創り出す幻想的な空間

くつきの森で毎年恒例の秋のイベント、「山のめぐみフォーラム」が開催されました。

第1部のフォーラムは、名古屋大学名誉教授只木良也氏の基調講演を聞いたあと、現地散策へ。只木氏に「里山と水」をテーマに、里山保全の在り方について講演いただき、気さくな人柄に参加者は楽しく聴講されていました。

現地散策では集落のカワトや里山、歴史について、地元の方のガイドのもと視察し、くつきの自然に触れました。

第2部は、毎年好評の丸八百貨店のお母さん方の郷土料理を食べながら、地元高島の市民バンド「アビロード」の皆さんによる懐かしのロック&フォークの音楽会を楽しみました。おいしい郷土料理にビール、懐かしの音楽に酔いしれながら、外に目を向けると手作りランタンの灯りが会場を包みこんでいます。

たくさん笑顔が溢れ、警沢ないイベントとなりました。



フロアトーク。左より森氏、成田氏、堀越氏



鹿肉の解体実演。獣害の鹿だって地産地消。

「わたしたちが創る」— 湖北 『よばれやんせ湖北 ビワマスフォーラム・生産者消費者交流会』 開催しました。

- ◆ 日 時/2012年11月18日(日) 10:30~15:30
- ◆ 場 所/朝日漁業会館(長浜市湖北町尾上)
- ◆ 内 容/▽ビワマスフォーラム(主催)長浜バイオクラスターネットワーク
10:40 淡海の宝石 ビワマスの魅力について ●松岡 正富さん(朝日漁業協同組合) ●川瀬 利弥さん(㈱びわ鮎センター・ピワサーモン振興協議会)
11:20 ビワマス長浜ブランド化プロジェクトについて
「アメノイオご飯」の作り方講座 ●古沢 みどりさん(滋賀県調理短期大学校)
11:40 ビワマス料理試食
▽生産者・消費者交流会(主催)よばれやんせ湖北実行委員会
12:15 作り手との交流会~湖北の恵みを「いただきます」!
13:45 休憩/鹿肉の解体実演(希望者のみ)
14:00 シビエを知ろう~鹿肉について ●松井 賢一さん(湖北農業農村振興事務所)
14:30 地産のものを応援しよう!(フロアトーク)
コメンテーター●成田 賀寿代さん(長浜市地産地消推進協議会・こだわり滋賀ネットワーク)
●堀越 昌子さん(京都華頂大学) ●森 建司さん(循環型社会システム研究所)
15:15 抽選会&閉会
- ◆ 参加者/120名
- ◆ 主 催/[長浜バイオクラスターネットワーク]長浜市、関西文理総合学園、長浜バイオ大学、バイオビジネス創出研究会、長浜商工会議所、浅井商工会、びわ商工会、湖北町商工会〔よばれやんせ湖北実行委員会〕長浜み〜な編集室、(株)びわ鮎センター、(株)富久や、(特非)環人ネット、(株)ロハス余呉、M・O・H通信、(特非)木野環境
- ◆ 協力/朝日漁業組合、滋賀グリーン購入ネットワーク、滋賀咲くブログ、新江州(株)、長浜市地産地消推進協議会(長浜市農政課)、パイン(株)



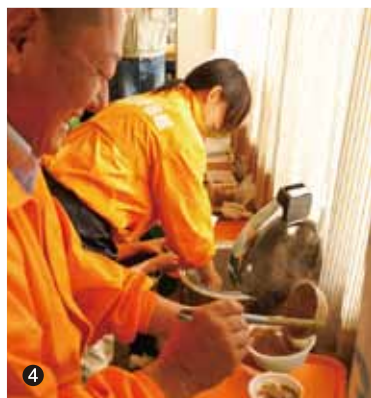
1



2



3



4

- ① 120名の熱気が会場を包み込みます ② ヘルシーな鹿肉料理はいかが？ ③ ビワマス料理。見た目も楽しい♪
④ CoCo壱番屋スタッフの方々も大忙し!



とろける鹿肉のカレー

湖北地方に伝わる伝統料理、また新たに開発されている特産品を用い、生産者と消費者が交流する『よばれやんせ湖北』が開催されました。参加者は80名、生産者の方々やスタッフを合わせると約120名の方にお集まり頂きました。ビワマスや鹿肉を味わい、生産者の思いやこだわりを聞いた昼食会では「ビワマスのお寿司がおいしい!」「鹿肉は臭みもなく食べやすい」といった感想が聞かれました。

「よばれやんせ湖北」の詳しい内容、生産者の方の情報等は、次号39号(2013年3月発行予定)にて、詳しく掲載予定です。



「わたしたちが創る」一守山
食と文化の歴史探訪
“なばな”を食べよう
 大庄屋諏訪家屋敷特別公開イベントにて

11月3日から5日までの3日間、史跡 大庄屋諏訪家屋敷にて、屋敷の特別公開と第6回「小菊盆栽展」が開催され、多くの人で賑わいました。屋敷は市指定文化財で、普段は見るこ

- ◆日時/ 2012年11月3～5日
- ◆場所/大庄屋諏訪家屋敷(赤野井町)
- ◆内容/
 - ・大庄屋諏訪家屋敷特別公開&小菊盆栽展
11月3～5日 10:00～15:00
 - ・赤野井物産展 11月3～4日 10:00～15:00
 - ・赤野井食と文化の歴史探訪 11月3日 10:00～14:30
 - ・試食とアンケート調査 11月3日 10:00～14:30



2

①「お味はいかがですか?」「なばなっておいしいですね」②史跡 大庄屋諏訪家屋敷 ③ なばなのクッキー ④ なばなのまんじゅう



ができない書院や庭園、また茶室と主屋の一部が公開されました。小菊盆栽展は、諏訪家屋敷のボランティアをされている「28園芸」小菊同好会が、1年間丹精を込めて育てたものです。

また3日、同所では「試食とアンケート調査」として、守山市第6次産業活性化連絡会による『なばな(菜の花)』を使った加工品の調査が行われました。なばなは守山市の地域資源として位置づけられており、6次産業化や加工商品開発の事業が進められています。乾燥させ、粉末にしたなばなを練り込んだ『なばなまんじゅう』や『なばなクッキー』も好評で、「販売されたら買って食べたい」という声も聞かれました。

イベント期間中、赤野井物産展や赤野井食と文化の歴史探訪も開かれ、訪れた人は諏訪屋敷の歴史に触れたり、地元赤野井の特産品を買い求めたりと、思いおもいに楽しんでおられました。

豊かさをはかる にっこり指標のご提案

サロンプログラム

- ・第1回 (7/31) 私の考える豊かさ、将来滋賀はこうなる
- ・第2回 (8/30) 豊かさを実感するには (尺度を考える)
- ・第3回 (10/7) 高島市現地視察 (豊かさを追求する先進地を訪ねて)
- ・第4回 (10/31) 豊かな生活のためにしなければならないこと

今年、2年目となる「未来戦略サロン」(主催:滋賀県、企画運営協力:環人ネット)は、これからの滋賀県の姿を描き、具体策を考え実行していくために何が必要なのか?をさまざまな人たちが同じ土俵で語り合う、政策議論の場です。今年度は、「豊かな生活」をテーマに、今後の政策展開へのヒントを探り、開催されました。

昨年度は、参加者の意見を1枚にまとめた「びわこマンダラ」を作成しましたが、今年度は、サロンでの意見をもとに、自分たちでやってみたいこと、県がやったらいいのではないかなと思うこと、みんなで一緒にやりたいことを提案書という形でまとめました。



豊かさを実感することも重要ですが、そのためには、豊かさを「はかる」ものさしをつくることと、豊かさを感じる心をもつことが大切だと考えます。

時間	(つながりやゆとりの時間、好きなことができる時間など)
空間	(景観、自然環境、文化財などを含む)
人間関係	(家族、地域社会、公共など)
必要なもの	(食糧やエネルギーなどの物質、社会基盤、権利、機会など)
心	(思いやり、正しい考え、人格の形成など)

などに余裕があること あるいは、
選択肢があること (選べる自由があること)

ここでは、第4回で提案書案として、示したものの概要をご紹介します。
私たちが考える豊かさは

未来戦略サロンでの議論の概要

案1 豊かさ実現のために、
こんなことができませんか

【未病ユートピア】

医療環境が充実している守山市を病気になる予防医療最先端地として、医療観光の中心をめざしてはどうか。医療施設だけでなく、健康メニューのレストラン、カルテで書く医療施設で共有できる、ポイント制の導入などのまちぐるみの取組で人が集まる。

【お金のいらぬ郷】

お金がだんだんバーチャル(仮想)になり、十分機能しなくなっている。また、お金が貧富の差を生んでいる。人と人の関係が温かくなる、物々交換を復活させてはどうか。

【地元愛・インディティ・ひな(鄙)美しが】

滋賀ならではの、自然とあいまった歴史や文化に育まれた良さ、美しさを、もつと愛し、伝え、発信してはどうか。そのために「MY観音さんを探せ!」(自分の好きな観音様を探すイベント)や、「天使の梯子コンテスト」

(雲間から陽光がもれさす写真のコンテストで、四季が際立つ滋賀の美しさをアピール)などの催しが考えられる。

案2 豊かさを軸に県の施策を
体系化してはどうか

県などの行政の政策・施策は全て住民の幸せのためにあります。幸せな生活を築くカギの一つが豊かさです。

県の施策を豊かさの視点で改めて見つめ、豊かさを体系化し直すことで、施策の縦割りを排除し、より住民にとって実感のもてる政策体系が構築できるのではないのでしょうか。

案3 豊かさをはかる「ものさし」
をつくってはどうか

①笑顔ではかる

笑う時間(笑顔の長さ)と人数を指標とします。

②生き物ではかる

生き物が安心して暮らせる環境は、人間にとっても豊かな生活につながっ

ているはずですが。生き物はいろんな面で指標に適しているのではないのでしょうか。

③健康ではかる

心身ともに健康であるためには、衣食住が満たされているだけでなく、それらをもたらしにくれる自然環境が整っていないなければいけません。医療費も重要な指標です。人生の最後までできるだけ健康を維持し、家族に看取られてほっくりと死を迎えられることをめざすためには、ものさしが必要ではと考えました。

④多様性ではかる

いろんな考え方、生き方があってもいいじゃないかと認めること、あるいはそれが可能な社会が豊かなのではないのでしょうか。どれだけ多様性があるかはかるものさしを「レインボースケール(虹色のものさし)」と名付けたと思います。選択できる幅を広げるためには、その生き方を可能にする環境が整っていて、人々の心に許容範囲の広がりが必要です。

案4

県政を住民が実感できるように
みづくり、政策議論の場の
あり方について

未来戦略サロンには、意欲をもって継続的に参加していただける方がいる一方で、「とても興味はあるのだが、時間的に間に合わなくて（遠くて）参加できない」という方もおられました。できるだけ多くの方に参加いただける政策議論の場とはどんなものか、アイデアをいくつか挙げてみます。

①

- ・朝活サロン：出勤前に朝食を摂りながら月1回議論
- ・ランチサロン：お昼ご飯をたべながら。
- ・3の日サロン：「3」がつく日には集まって議論（3はサロンの3）

誰が

- ・県：引き続き。
- ・市町：議論の輪を広げるために、市町で開催（県内市町が合同で開催し、

交流しても）。

・サロン経験者：自発的な議論の場として発展。

・学生：デイベート教育の場として。

②

- ・テーマ別開催：政策毎に開催
- ・県庁内の遊休空間を利用して、「じやべり場」を開設：常時開放し、訪れた人が順に設置されたホワイトボードに思いを綴っていく。
- ・政策の泉：インターネット上に議論の場を設置（運用に注意）。
- ・政策紙芝居コンクール：思いつく政策を紙芝居仕立てで提案。優秀作品には大舞台での上演の機会が。
- ・議論と輪を広げる：フェイスタックを利用。

・絵から出たまこと：小中学生の描く未来の絵をどうやったら実現できるか、大人達が頭を寄せて議論。

・にっこり大会：豊かな生活のためのさまざまな取り組みを一齐に貼り出し、よいと思う取り組みに「にっこりシール」を貼る。「にっこりシール」が多い

取り組みにっこり大賞を贈る。



以上、議論から出てきた参加者の皆さんのアイデア、2年間未来戦略サロンを運営して気づいたことを提案としてまとめてみました。内容的には未熟なものではありますが、これを見て、「もっとこうしたら？」「こんなアイデアもあるよ」というご意見、ご提案を頂戴できればと思います。

子や孫に引き継ぐ滋賀の未来は、誰かに任せるのではなく、私たち自身が育むものです。一人で考えるよりも、多くの人が議論し、知恵を出し合うことで大きな力が生まれます。明るい将来に向けて一緒に考えませんか。

人賤の森
環人ネット
近江環人

※報告書および詳細は

滋賀県総合政策部 企画調整課 企画計画

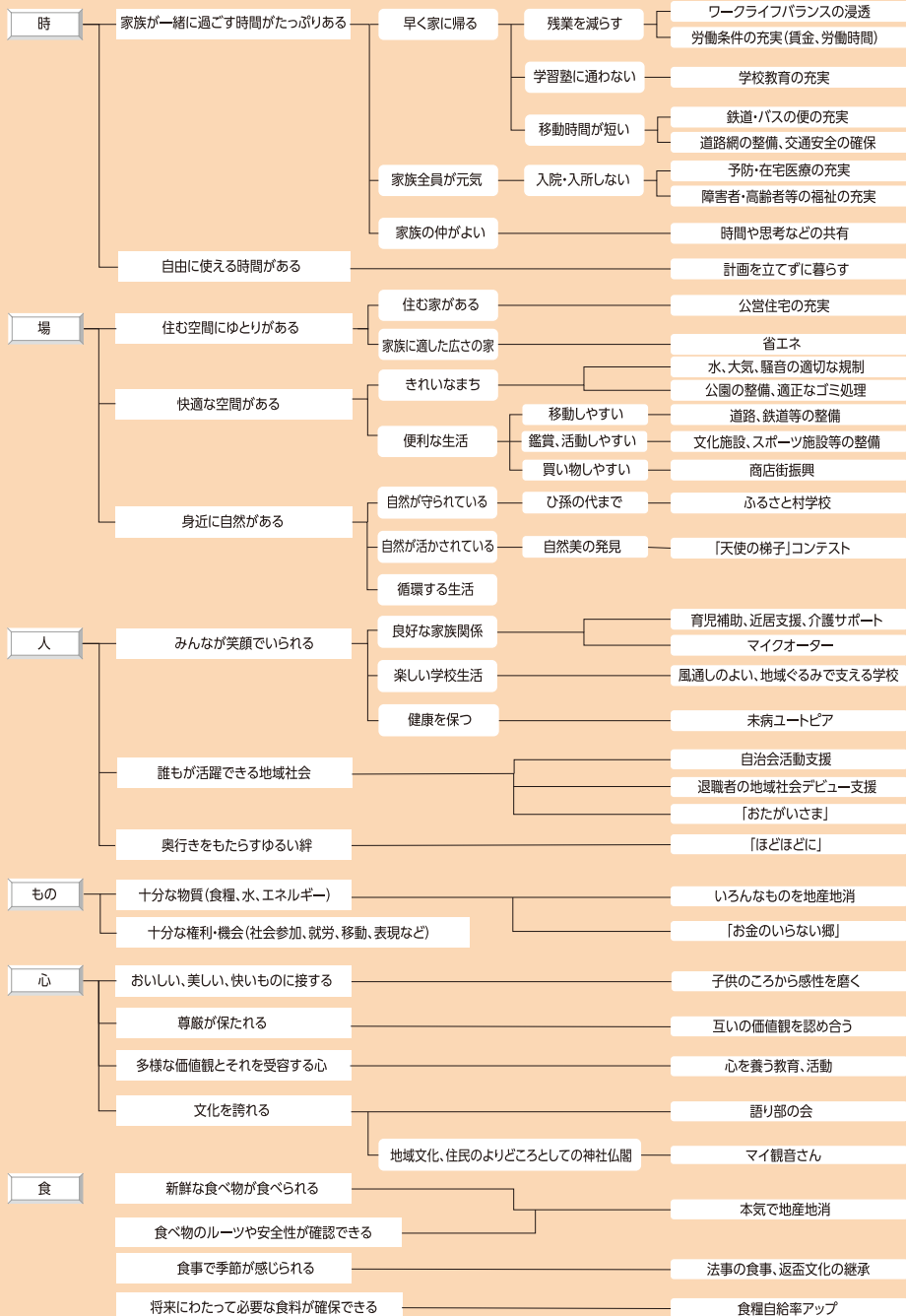
担当 松田千春まで

〒520-8577

滋賀県大津市京町4-1-1

TEL 077-5228-3312

FAX 077-5228-4830



山暮らこ子育て日記

作:オミキ

オミキの住む
木地山区は、朽木の中
市場区から約14km
はなれた山奥。

山暮らこ子育て日記

山を越え谷をこえ
山を越え谷をこえ

はまなみははなみ
根性ありません

14kmの道のりを
歩いて...?

くつきがし
朽木東小学校

朽木内の
ほとんどの
子どもは
この小学校です。

今は分校はかく
うちの子は市場の
本校に通っている。

おはようございます

始発の木地山から
乗るのはうちの子二ス。

じやん!!

市営バスがあるのだ。

一日に3便あるのだ。

入園式の翌日から
ひとり乗車。

いってらっしゃい

いやはや思いがたすな

10歳の長男が
年少でバス通園開始

バス通歴は、長女は
5年。長男は8年。

年々のときからバス通園

すると、次のバス停の
お家のお母さんが

涙うかべて
すわってたけど
大丈夫!!

ワン

ドアが開まった瞬間

つまん
なれな

不安そうな顔
取戻した表情

今でも心れない。



朽木には、琵琶湖に注ぐ安曇川という大きな川が流れ、その支流もある。それらの川沿いに集落があるが、集落間は結構距離がある。昔の人は当然歩いて行き来したのだが、今は車での移動がほとんど。なので、子どもや年配者にとってバスの存在はありがたい。息子たちが通う小学校も、バス通学の子が多い。市営バスだけど、保育園の年少組から子どもだけで乗せることができる。(バス停までの大人による送迎は必要。)朝のバスはどの路線も通学通園の子どもたちで満員だとか。バスの運転手さんは、どのバス停で誰が乗るのか把握してくれており、まるで園バスのよう。運転手さん、ご苦労様。

● 本名加藤みゆき。人口17人の集落に住み3人の子育てに奮闘中。将来、家族で海外へ旅行するのが夢。

オノミユキさんの新書ができました!

■ 山村大好き家族
ドタバタ子育て編

- 著者/オノミユキ
- 発行/サンライズ出版
- 価格/1200円+税
- 内容/オノミユキ氏の漫画が一冊の本になって登場! M・O・H通信連載分も一挙公開!



どうやらバスの席順が決まっているようで、上級生の指示に従わなければいけないみたい。子ども間でのルールがあつて、やりとりがおもしろい。班長も決められていて、権限はあるが、全学年をまとめるのも大変そう。来年は、6年になる息子が班長。さて、務まるのかな…?

あめのもり ほうしゅう

「雨森芳洲」を学ぶ その1

井上 昌幸



私たちの郷土には、歴史を形作った恩人がいます。ちよつと古臭いと思われるかもしれませんが、難しいと思われるかもしれませんが、知っておくことが心の誇りの一つになるかもしれません。今回は、湖北の偉人を紹介しましょう。

雨森芳洲あめのもりほうしゅうは滋賀県長浜市高月町雨森出身の儒学者じゆがくしやうで、江戸時代に対馬藩において朝鮮との交流に尽くされた人です。芳洲という名は年をとってからつけたものです。

年譜表ねんぷひょう、上垣氏著「雨森芳洲」及び平井茂彦氏著「芳洲先生」などを参考にしながら、雨森芳洲の生涯を二回にわたって説明していきたいと思えます。

芳洲は雨森の地かんぶんで寛文八年（一六六八）五月に医師雨森清納あきのみの子として生まれました。先祖は武士でありましたが、姉川の合戦後に浅井家と共に没落して、父親は医業で生活していました。名は俊良しゆんりやうといました。

家族で京都に移り、父親は医師とし

て働きながら、俊良に漢文で書かれた中国古典の四書（大学・中庸・論語・孟子）五経（易経・書経・詩経・礼記・春秋）の読み書きを教ええました。そして、九才の時に漢詩を作りまし

た。十二才の時、京都で高森正因という名医に医術を学び、元服後は東五郎という名に改めました。

十六才の時、父親が亡くなり、東五郎は母親と江戸に出て、木下順庵という儒学者のもとで勉強を始めました。

木下順庵は京都錦小路の出身で、儒学を学び、私塾を開いて、門人に教えていました。順庵は五代將軍徳川綱吉に招かれて江戸に行き、幕府の侍講を務めるようになり、朱子学・陽明学を学び、視野の広い教育者として認められ、新井白石・室鳩巢など優れた人材を輩出しました。

東五郎は順庵門下で「木門の五先生」と呼ばれるほどの人材に成長しました。

元禄二年（一六八九）、東五郎は二十

二才の時、順庵の推挙により、対馬藩に仕えることになりました。そして、しばらくの間、江戸にある対馬藩の家で過ごし、勉強に励みました。そして二十五才の時、長崎で中国語を学びました。

元禄六年（一六九三）九月、二十六才の時に初めて対馬に渡りました。対馬は長崎と朝鮮・釜山との間にある日本の島で、対馬藩は朝鮮との外交や貿易の窓口の役割をしていました。対馬では殿様に学問を教えていました。

二十七才の時、藩主・宗義倫の参府に從つて江戸に行き、二十九才の時、中国語を学ぶため、江戸から長崎に派遣されました。

そして対馬に戻つて、小川新平の妹と結婚しました。

対馬藩では、朝鮮との外交に当る職に就き、朝鮮との文書を扱う仕事で、朝鮮方の補佐役を命じられました。

元禄十五年（一七〇二）三十五才の時、使節団の一員として、初めて朝鮮

に渡りました。そして釜山にある「倭館」というのは、現在の日本大使館の役割を行う所です。

対馬藩は江戸幕府から、朝鮮との外交や貿易の窓口として、一切を委任されていたのです。そして「倭館」では対馬藩の人たち五百人ほどが仕事をしています。

三十六才及び三十八才の時に、朝鮮語を学ぶため、朝鮮に派遣されています。そして朝鮮語の会話事典といわれる「交隣須知」という本を作りました。

井上昌幸

●いのつえまきゆきり1940年1月1日生まれ。現在、滋賀県農業文化交流連合会長、STEPP21（滋賀県シニテクニカルエンジニアリングパートナーズ企業組合）専務理事、関西師友協会活字塾講師、大津木鶏クラブ代表世話人、近江素交会代表世話人

渡り鳥がくれた 生き生き人生

今関 信子



イラスト：千田 満

元炭鉱マンのヤッサンは、話し出しました。

「その頃、炭坑夫は、五十五才の誕生日が定年でした。明日が退職という日の前日、もう坑道には入ってこないんだなあ、そう思ったら、長い間働いていた場所を、見ておきたくなりました。」

ヤッサンは、十八才で三池炭鉱に入社しました。それから、三十七年間、荒尾の採掘場で電気工として働いて、退職は、一九九四年のことになります。

その頃、荒尾の陸地から掘りおろせる採掘場の石炭は掘り尽くし、海底へ、もっと海の中へと、作業場を伸ばしていました。

「閉鎖された坑道を、巡っていた時でした。頭のカンテラが、どんづまりの壁を照らしました。その瞬間、羽音がして、何かが飛び立ちました。坑道に鳥？ 私は目を凝らしました。疑いなく鳥でした。カラスを二周りほど大きくした感じの鳥が、よろけながら立つ

ていきます。周りを見ると、死骸がごろごろ転がっていました。私の胃は、ぎゅーっと痛みました。」

ヤッサンのいる坑道は、有明海に浮かぶ三池島にあります。三池島は、大牟田市の沖合約六キロメートルにある人工島です。海底炭鉱の坑内に、空気を送るために建設されました。

「見上げると、吸気口がありました。吸気口からは、秒速九メートルの空気が取り込まれていました。海底の採掘場で働く私達に、どうしても必要な空気です。」

ヤッサンは目を閉じて、息を吸いました。

「それが、鳥たちにはブラックホールだったのです。」

ヤッサンが見たものは、地下五百二十メートルの暗闇の中で、息絶えた野鳥達でした。

ヤッサンは、炭塵爆発も経験していません。暗闇に横たわる鳥の死骸は、真っ黒くなって横たわった仲間たちに思えました。同級生の顔とだぶり

ました。

「私は、生きている鳥を抱いて、地上に上がりました。」

ヤッサンは、会社に防護柵を作ってもらいと訴えました。渡りの途中、休憩しようと立ち寄った日本で命を落とすなんて……。会社は、「たかが鳥じゃないか」と、取り合ってくれませんでした。

ヤッサンの胸で、「たかが……」が木霊こだましました。地底で動かなくなった仲間の顔を思い浮かべて、「たかが鳥のいのち」と、声に出したりしました。ヤッサンは、保護活動に乗り出さないではいられません。マスクミヤ自然保護団体とも、力を合わせました。一年後、世論に動かされて、会社は、防護柵を作りました。

あれから十九年。ヤッサンの活動現場、荒尾干潟がラムサール条約に登録されました。

「多くの人の思いが、自然と共に暮らせる環境を、求めるようになったのだと思います。」

無骨なヤッサンの言葉です。

「見捨てられそうなのにこそ、気をかけたいですよね。」

ヤッサンの胸には、今も「たかが……」が木霊しているのでしよう。洗った綿シャツがよく似合うヤッサンは、生き生き活動しています。



今関氏のプロフィールは30ページ

● せんだ みつる 1950年、滋賀県生まれ。大阪のデザイン会社を経て1980年「イラストレーションスタジオアビロード」設立。イラストレーションを中心にポスターやパンフレット等を制作、ロゴマークやパッケージ、キャラクターデザイン等グラフィック全般、広告・エディトリアルを中心に活動中。

もう師走

三山 元暎



さし絵:中川 善雄

この季節、大陸から季節風が吹くことで、時雨が多くなる。日本海から水蒸気をもらうとともに、下から暖められて対流を起こし、たくさん積雲や積乱雲を作り出し、風に

流されて湖北の空へやってくる。すると、にわかには暗くなつて冷たい雨が降る。閑寂な趣がしたかと思つと、先ほどの雨が嘘のように明るい空が広がり、赤や黄に染まつた

里山がうるんでみえる。

秋時雨。立冬の前に降る雨をいう。私が子どもの頃は、この時期が秋の取入れの最盛期だった。刈り取つた稲穂は農家の庭先にむしろを広げて干したものだ。

芻干すや鶏遊ぶ門の内

正岡子規

このように牧歌的な情景が見られた一方、さあつと秋時雨がきて、家族総出で素早くむしろをたたむ光景もしばしば見かけた。

晩秋の秋時雨がやがて時雨となり、小春日和との繰り返しの中で、日の光が白っぽく見えてくると師走だ。年を重ねるに従つて、一年の短さを痛感する。ヤツデの花が散り始めると伊吹のお山は雪化粧。寒さも本番である。

里の初雪ももうすぐ。冬至、

大掃除、除夜の鐘と、あつという間に今年も暮れていくことだろう。やり残したことのあるこれを悔いながら。

枇杷の花咲いてこぼれて

年は逝く 山口青邨

三山 元暎

●みやま もとあき 1940年滋賀県坂田郡山東町(現・米原市)生まれ。長浜市の理事・経済部長を経て1995年8月から2005年2月まで山東町長。同月14日米原市誕生にともない退任。真宗大谷派真勝寺前任職。

●なががわ よしお 1936年生まれ。滋賀県展、長浜市展、伊吹を描く絵画展など入賞、入選歴多数あり。税理士。

本の紹介

最近入手した、気になる本・CD・DVDをご紹介します。

BOOKS

うまいぞーシカ肉

―捕獲、解体、調理、販売まで―



●著者／松井賢一、藤木徳彦、竹内清、長谷川直、中村勝宏
●発行／農村漁村文化協会
●価格／1800円＋税
●内容／獣書の7割はイノシシシカ、サルといわれる。シカの捕獲数も増え続け、その有効活用も課題。シカ肉の旨さは狩猟法と捕獲後の血抜き、冷却、火入れの仕方次第で大きく転換できる。シエフと書駆除の一線に立つ指導員の旨くて売れるシカ肉のための指南書。

グローバル化の中の江戸



●著者／田中優子
●発行／岩波書店
●価格／820円＋税
●内容／海外のものを巧みに取り入れ、独自の発展を遂げた江戸時代。「本当にグローバルであることとは」を考へる。

京都花街の経営学



●著者／西尾久美子
●発行／東洋経済新報社
●価格／1600円＋税
●内容／気鋭の経営学者が5年におよぶフィールドワークを実施。京都花街という「ビジネス」の秘密をあざやかに解き明かす。

長浜曳山まつりの舞台裏



―大学生が見た伝統行事の現在―
●編著者／市川秀之、武田俊輔
●著者／滋賀県立大学曳山まつり調査チーム
●発行／サンライズ出版
●価格／1200円＋税
●内容／滋賀県立大生が長浜曳山まつりの舞台裏をレポート。

季刊地域 No.11



●編集／百合田敬依子・阿部道彦・五十嵐映子・峰屋基樹
●発行／社団法人農山漁村文化協会
●価格／900円
●内容／特集「地エネ時代農村力発電いよいよ」現場の迫力をたどる。

石山寺縁起絵巻の全貌



―重要文化財七巻一巻大公開―
●企画・編集／滋賀県立近代美術館 國賀由美子
●制作／便利堂
●発行／「石山寺縁起の世界」展 実行委員会、京都新聞社
●内容／「石山寺縁起の世界」展で紹介された縁起絵巻をまとめた一冊。

信長×信玄

―戦國のおねりの中で―



●主催、編集・発行／滋賀県立安土城考古博物館
●印刷／西濃印刷
●内容／開館20周年記念、平成24年度秋季特別展の解説図録。信長と信玄を取り巻く戦国諸勢力との攻防や結末を読み解く。

講演日記

3000年経営塾



皆様のご支援でたくさんの方の講演依頼を頂きました。2012年9月～11月の講演をダイジェスト版でお知らせします。

- 日時：9月19日
- 主催：3000年経営塾
- 対象：会員
- 演題：日本の伝統産業における「伝統と革新」〈京都花街の事例〉
- 講師：西尾久美子（京都女子大学准教授）
- 会場：浜湖月
- 参加人数：20人
- 内容：経営学者の西尾先生による講演。京都花街において350年

も続く「ビジネス」を解説。人の育て方の極意を学ぶ。

執筆者懇談会29

- 日時：9月25日
- 主催：弊誌
- 参加人数：14人
- 内容：38号「教育」生きる力、39号「魅力発信」くらしの絆の特集を決定。

プレス会見

- 日時：10月10日
- 対象：よばれやんせ湖北実行委員会
- 参加：5社、長浜市
- 内容：イベント「よばれやんせ湖北」のご案内。

敦賀教室

- 日時：10月23日
- 主催：ふくい産業支援センター
- 対象：敦賀法人会青年部会員
- 演題：中小企業にしか出来ない持続可能型社会の企業経営
- 講師：森建司

- 会場：新江州本社
- 参加人数：40人
- 内容：敦賀法人会青年部会員の勉強会。

びわ湖環境ビジネスメッセ2012出展

- 日時：10月24～26日



スマートコミュニティ

- 日時：10月26日
- 主催：NPO法人EENET

共催：M・O・H通信

対象：一般

講演1：「スマートコミュニティ」の実現に向けて、戦略的企業連携のすすめ（竹中篤キース理事）

講演2：「地域から始まるスマートコミュニティ」

地域を活かすスマートテクノロジー（柴田政明 NPO EENET 理事長）

講演3：「地域産業の復活」（森建司 NPO EENET 会長）

会場：滋賀県立長浜ドームセミナー室3

参加人数：50人

内容：びわ湖環境ビジネスメッセ2012と同時開催セミナー。

日時：11月13日

主催：3000年経営塾

対象：会員

演題：地産地消のネットワーク設立について企画案

講師：森建司

- 会場：浜湖月
- 参加人数：20人
- 内容：ネットワーク設立に向けて、思いを語る。

ブータンミュージアム開館記念事業



- 日時：11月17日
- 主催：NPO「幸福の国」
- 対象：一般
- 演題：もったいない・おかげさま・ほどほどに
- 講師：森建司
- 会場：ブータンミュージアム
- 参加人数：40人
- 内容：今、「幸福の国」の扉を開くには、「もったいない・おかげさま・ほどほどに」について講演。

第9回発達障害の人への 支援セミナーしが

- ◆日時／2013年1月13日(日)
10:20～17:00(9:30～受付)
- ◆会場／滋賀県立男女共同参画セミナー
G-NETしが(近江八幡市鷹飼町80-4)
- ◆参加費／2,000円
- ◆内容／
 - ◎講演:「成人期の発達障害者が充実した生活を送るために必要なこと」
川崎医療福祉大学 佐々木正美氏
 - ◎実践報告:「青年・成人期の実践」
報告①日野町福祉課、滋賀県立三雲
養護学校、滋賀県立近江学園
報告②滋賀県社会福祉事業団企画
事業部(ホームかなざわ)
- ◆お問い合わせ／
滋賀県発達障害者支援センターいぶき
TEL:0749-52-3974 FAX:0749-52-3984

滋賀県次世代育成 ユースシアター事業 ミュージカル 銀河鉄道の夜

- ◆台本・演出／西垣耕造(東京演劇集団
風)
復興と希望と祈りの行動メッセージ事
業。宮沢賢治の名作『銀河鉄道の夜』
をお届け。
- ◆日時／2013年2月2日(土)・3日(日)
両日とも15:00開演(14:30開場)
- ◆会場／しが県民芸術創造館 ホール
 - ◎一般…1,000円(前売り)／1,500円
(当日)
 - ◎18歳以下…800円(前売り)／1,000
円(当日)
 - ◎障害のある方※要証明書…800円
(前売り)／1,000円(当日)

※3歳以上有料

- ◆チケットのお求め・お問い合わせ／
しが県民芸術創造館
〒525-0059 滋賀県草津市野路六丁
目15-11
TEL:077-564-5815 FAX:077-564-5851
[http://www.shiga-bunshin.or.jp/
souzoukan/](http://www.shiga-bunshin.or.jp/souzoukan/)
- ◆主催／滋賀県、公益財団法人滋賀県
文化振興事業団

ファミリーコンサート 親子で楽しむ音楽と絵本 おふろだいすき

- 舞台上のスクリーンに映した絵本と一
緒に音楽を楽しむコンサート。
- ◆日時／2013年2月24日(日)
15:00開演(14:30開場)
 - ◆会場／栗東芸術文化会館さくら大ホー
ル(〒520-3031 滋賀県栗東市纒(へ
そ) 2-1-28 TEL:075-551-1455)
 - ◆入場料／大人2,000円、こども(4歳か
ら中学生)500円、大人<友の会>
1,800円
 - ◎第1部:クラシックをきいてみよう!
 - ◎第2部:親子で楽しむ音楽と絵本「お
ふろだいすき」
 - ◆チケットお求め
 - ◎栗東芸術文化会館077-551-1414
 - ◎さくらオンラインチケットサービス
<http://www.sakira-ritto.net/>
 - ◆主催／栗東芸術文化会館さくら

第6回 M・O・Hせんりゅうコンテスト 2012 ベスト3決定

皆様よりご応募いただいた「M・O・Hせんりゅう」の中から、
今年もベスト3を選出しました！

執筆者懇談会での1次審査、社内での2次選考を経て、
びわ湖環境ビジネスメッセにて選ばれたベスト3の発表です！

- 《1位》 人と人 つなぐ言葉は ありがとう (支持率18.3%)
 《2位》 おかげさま その一言で みな笑顔 (支持率14.9%)
 《3位》 M・O・H通信 ひとりで読むには もったいない (支持率11.4%)
 <次点> もったいない 気持ち思えば 行動に (支持率10.3%)

本年の特徴は、これまでの「もったいない (循環)」人気から、「おかげさま (共生)」や人とのつながりを意識した言葉に人気が集まったことです。昨年の1位は「ほどほどに (抑制)」を表すせんりゅうでしたが、3.11後から、意識が変わりつつあるのかもしれませんが、

3位は皆様の優しさです。

作句していただいた皆様、投票してくださった皆様、ありがとうございました。



びわ湖環境ビジネスメッセ2012にて

手話で話そう、好きな食べ物

協力:びわこみみの里

手話
コーナー

五十嵐 恵子

- 好きな食べ物
ケーキ
- 私の夢
の〜んびり
すること



北川 雅貴

- 好きな食べ物
パスタ
- 私の夢
聴導犬を飼いたい



いいもの
みつけた

ソーラープランツ

11月19日滋賀銀行の大道頭取と本誌の森会長が面談しました。

その際、滋賀銀行が環境共生プロジェクトとして取り組む、「ソーラープランツ」を紹介いただきました。

太陽光で発電する常夜灯です。植物（プランツ）の葉がソーラーで太陽光を受ける形状を機能的にイメージして設計されています。昆虫の眼のような電球が発光し、夜道を照らします。

トンボが葉っぱの間から姿を見せているようでほほえましいですね。



出展
しました

田舎暮らしフェスタ2012 M・O・H通信出展しました

10月28日（日）、曳山博物館および周辺広場・商店街にて田舎暮らしフェスタ2012が開催され、M・O・H通信も出展しました。M・O・H通信のご紹介、「よばれやんせ湖北」のPRをしました。

参加
しました

第13回介護保険推進全国サミット inひがしおうみ

誰もが安心して人生を全うできる地域社会をどう創りあげていくのか、医療福祉や地域の連携をどう創りあげていくのか。「全国各地におけるさまざまな取り組みから明日へのエネルギーを充電し合うサミット」が、2012年10月4日、5日、滋賀県東近江市から全国に向けて発信されました。4日は基調講演後、ターミナルケア、認知症

支援、訪問介護の3部科会に分かれてのパネルディスカッション。会場外には多くのブースが出展し賑わいました。サミット期間中、東近江市永源寺地区で在宅医療や看取りの現場に密着取材されているフォトジャーナリスト、國森康弘さんの写真展も開催され、訪れた人の中には命のバトンを継ぐ瞬間の写真に涙する人も見られました。

「循環型社会を目指す～M・O・H通信～」の発行に当たって

代表 森 建司

20世紀型社会は経済至上主義の時代であった。科学技術の進歩とそれに伴う工業や流通の発展は、世界的なスケールで人々に物による恩恵をもたらしたが、同時にバランスのとれた自然との共生社会を破壊した。経済至上主義とは物の豊かさを最高の幸せとして捉え、その対極にあるものの価値をほとんど消し去ろうとするものである。人々の価値観を情報操作で画一化して、特定のものに集中させようとするマーケット戦略は個人の人生観、社会観にまで侵入し、その独自性、不可侵性まで奪って行った。このことによって人々は哲学的な意味の自己をなくしてしまった。

今こそ新しい時代として循環型社会を作ろうとしているわれわれは、自己を証明する心とか思いを取り戻さなければならない。死生観や人生観、先祖や子孫、生涯をかける志、自己を自己らしく生き抜くための人生哲学など。そしてそれは自然との共生社会を目指すものであり、人としての真の生き様を問うものであらねばならない。

この実現のために
「循環型社会を目指す～M・O・H通信～」を発行する。

《 M・O・H通信概要 》

■目的

- (1) 循環型社会構築に向けた意識改革
- (2) 浪費型社会念の脱却
- (3) 人生哲学を学ぶ

■事業

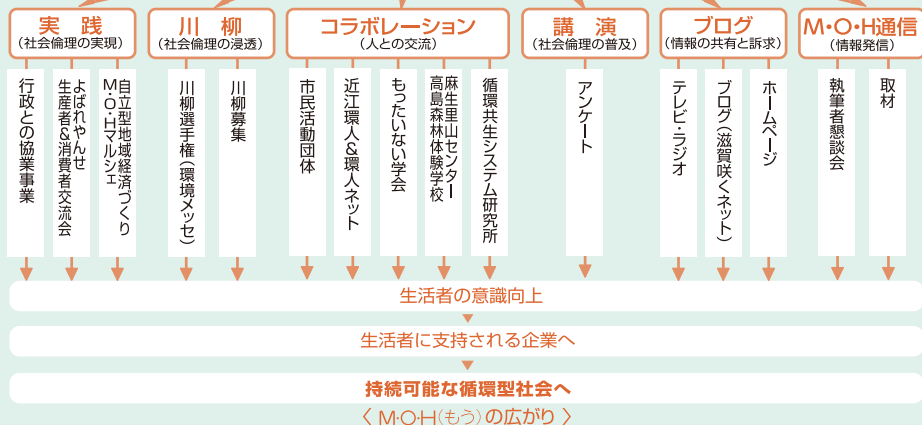
- (1) 通信の発行及び出版
- (2) 講演会、勉強会、シンポジウムなどイベントの開催

■事務局

〒526-0111
滋賀県長浜市
川道町759-3
循環型社会システム研究所
TEL.0749-72-5277
FAX.0749-72-8681
e-mail:tsujimura@shingoshu.co.jp
代表:森 建司
担当:つじむら ことみ

【 M・O・Hコンセプトシート 】

M・O・H=循環型社会をめざす言葉
(もったいない・おかげさま・ほどほどに)



読者の声

★地元のことなど、興味深くよろこんで読ませていただきました。家族7人皆で読ませてもらいました。

東近江市 竹中修二

★M・O・H通信37号のご送付をありがとうございます。毎回のよう、冊子の内容に刺激を受けております。そして社会、地域、暮らしについても、見聞を少し広めることが出来、嬉しく思っております。ところで、いま求められているのは「モノ」より「モノガタリ」、同感の思いです。「モノガタリ産業」が進展し経済の流れを支えることになるのですね。

佐倉市 平田和子

★2001年4月1日に誕生しました当園は、現在満11歳、12年目の歩みが続いています。前園長の保育実践集「からすりの熱れる頃」を本誌にて紹介いただき、ありがとうございます。

大津市 大津あいあい保育園

★M・O・H通信「最新号拝受、有難う御座います。地元の情報満載、写真も素晴らしいです。温暖化狂想がなくなつて読みやすいです。最初の4ページ、森さんのコラム、グローバル反対論、同感です。

石井 吉徳

★毎回M・O・Hに触発されています。ありがとうございます。

守山市 藤井絢子

★M・O・H37号を有難く受領いたしました。今回は、高い志をかかげての「未来創成」シリーズに加えて頂き会長様との名誉ある対談の機会を賜り誠にありが

とつございました。小職と成安造形大学にとりましても大変名譽な場を与えて頂いたことに感謝致しております。対談の席では、会長の社会意識改革の情熱と不動の人生哲学に触れさせて頂き「広さと深さ」を学ばせて貰いました。次号も楽しみな特集を期待しております。小職も後期高齢を気にせず夕陽を楽しんで参ります。

大津市 近藤 功

★講演会等で森会長のお話には共感するところ多です。第37号の巻頭言に「知足の名言が引用されています。まさに価値観の変革が必要ですよ。

長浜市 中川 忠俊

★先日は長浜ドームで色々とお世話になりました。企業庁は、鮎屋の少し北に位置し、湖周道路沿いにあります。近くへ来られたら寄ってください。さらなるご自愛を。

野洲市 西村 忠貞

M・O・H Parade

♪ 生きている 生老病死 大切に

米原市 近藤 洋子

♪ 心晴れ 雑草という 草はなし

大津市 池田 重信

♪ 犬決策 いきつく先は 自然体

犬上郡 東條 健一

♪ 買う前に 欲しがらないのが 基本です

♪ 彦にゃんに 負けじとながやん 長浜城

♪ 長浜城 彦にゃんに負けじと ながやん 登場!

〈メッセにて〉

《次号予定》

2013年3月発行予定

■特集:「魅力発信」くらしの絆

- MOHな里 / 「ガッター」多賀町南後谷
- 取材 / くらし応援カタログ
- 鼎談 / 「環境と地産地消」環境ジャーナリスト 枝廣淳子+内藤正明+森建司
- 寄稿 / 「これからの出口のある特産品開発」 1級フードアナリスト、6次化プランナー 新古裕子
- 取材 / 「自然薯栽培」清水しげる ほか
- 連載 / 通常通り

※ 敬称略、予告なく変更いたします

編集後記

「あっツイッター★またコケたわ」「なにしてたん?」

「全力でピン球追っかけたら中坊の目の前でスベッとコケた」

このところ休日返上で卓球にいそしむ娘との会話デシタ…………… (こと)

仕事場から見える伊吹山の雪化粧が綺麗です。琵琶湖には羽を休めるコハクチョウの姿も。「今年の冬は寒いよ!」そんな声が聞かれます。湖東に住む私は、毎朝、雪が降らないか心配… (自宅から1時間以上の車通勤なのです)。最近のマイブームは賃貸情報誌とのらめっこです。…………… (ひとみ)

《M・O・H通信》受付中!

あなたも「M・O・H通信」を読んでみませんか。特典として、M・O・H通信、講演会のご案内をいたします。あなたの活動やこの通信についての、ご意見もお聞かせください。

fax(あれば)、e-mailアドレス(あれば)、心に残った一言をご記入の上、お申し込みください。通信をお送りします。申込書をfax、郵送、mailでお送りください。

お名前、年齢、郵便番号、住所、電話番号、

《M・O・H通信》申込書 0749-72-8681

フリガナ		年齢	希望冊数
お名前			
住 所	〒		
電 話	FAX	メールアドレス	
あなたの心に残った一言、MOH川柳をお書きください。			

※記入いただいた内容については、目的以外のことに使用または転用はいたしません。

キリトリ線

M・O・H通信 Vol.38(通巻39号) 2012年12月20日発行 発行部数6,000部

●編集・発行/新江州(株)

循環型社会システム研究所

M・O・H通信編集局

代 表 森 建 司

編 集 長 つじむら ことみ

編 集 上岡 瞳

校正協力 稲垣 重雄

取 材 山崎 彩

デザイン 伊達デザイン室

写 真 辻村写真事務所

印 刷 ブランセル

ホームページ ブランセル

ブ ロ グ 滋賀・咲くブログ

●創刊/2003年3月度

●執筆者懇談会

内藤 正明 畑 裕子

海東 英和 堤 幸一

山田 朝夫 進 ひろこ

下西 康嗣 中村 誠

末永 國紀 笹山 千怜

花田 眞理子 結城 美枝子

弘中 史子 松崎 和弘

今関 信子 井上 昌幸

山崎 隆 辻村 耕司

三山 元暎 佐々木 洋一

加藤 みゆき 徳永 拓美

清水 安治 山口 美知子

檀上 俊雄 岡部 達平

森 孝之 豊田 一美

堀越 昌子 (順不同・敬称略)

●ご協力

滋賀県

琵琶湖環境科学研究

センター

循環共生社会S研究所

高島森林体験学校

麻生里山センター

NPO法人環人ネット

近江環人 地域再生学座

もったいない学会

野洲生活学校

EEネット

中小企業家同友会

(順不同)

●支援

新江州(株)

〒5260111 滋賀県長浜市川道町759-3

TEL.0749-72-5277 FAX.0749-72-8681

★ブログ 滋賀・咲くブログ★

<http://moh.shiga-saku.net/>

★ホームページ★

<http://www.mohmoh.jp/>

MOH図書館

検索 

※記事中での写真・本文につきましては、無断転載を禁じます。